

『聖珠伝説パールシード』のプレイ

霊薬は千兵を越えた



サークルくオニオンワークス

●概要

本書は、「聖珠伝説パールシード」リプレイです。

リプレイ制作は未熟のため、冗長な表記（発言編集の甘さ）、誤記、変なレイアウトがあるかもしれませんが、ご容赦ください。ご指摘いただければ、改版・増刷時に反映したいと思います。

・「聖珠伝説パールシード」について

1992年にツクダホビーから発売されたTRPGで、伏見健二さん、わきあかつぐみ（現：藤浪智之）さん、冒険企画局さんによりゲームデザインされました。

キャラクターデータ・判定方法もシンプルなうえに、6×6エリアのダンジョンを舞台にしたシナリオが基本となっており、短時間で遊べるように編まれたTRPGです。

2013年8月復刻いたしました！

・『霊薬は千兵を越えて』について

同名のシナリオ集が当サークル（サークル〈オニオンワークス〉）から発行されています。そのシナリオの2010年末版の第1話、第3話、第4話を用いて、本リプレイは編まれました。

・本書について

本書には、第2話、第3話が収録されています。

第1話は『百薬は霊薬を越えよ』に収録されています。第1話は <http://tamasuna.jp/pearl/> にて！

・プレイヤー発言、キャラクター発言について

各プレイヤーの発言のうち、「」内の発言が主にキャラクターの発言です。◇内は判定チャートから導き出された結果です。

●登場人物紹介

・ラスト・プーチン

僧侶、14歳、男。
〈意地汚い〉けど
〈一匹狼肌〉で
実は〈思慮深い〉



・ルクレチア（上）

盗賊13歳、女。
〈思慮深〉くて〈ギャンブル好き〉だけど〈乱暴〉

・マリーカ（下）

戦士、女性で16歳、〈熱血〉で〈理屈っぽ〉くて〈世間知らず〉



・ラズロック

魔法使い、13歳、男。
〈クール〉で
〈現実主義〉だけど
〈ギャンブル好き〉



■ 伝承 2 : 森の隠者 ■

【GM】：森の隠れる者って書いて、『森の隠者』です
ね。

【ラズロック】：森……喜朗？

【マリーカ】：モリアーティ……、ダンジョンシート
に書き書き。

【ルクレチア】：そこ、GM名欄（苦笑）

【GM】：（笑）森の隠者に芸名変えます

【ラズロック】：森の忍者？

【GM】：隠れる者、いんじゃない。

【ルクレチア】：（唐突に）公式シナリオやったこと
ある人って、どれくらいいますかね？

我々だけ（ルクレチア、マリーカ）？

【マリーカ】：あれ、公式シナリオ？ じゃあ、やっ
たことあるのか。

【プーチン】：まったく憶えてない。

ラズロック（Rion）さんはパールシード自体今日初めてです
から、もちろん公式シナリオはね。

【ラズロック】：というわけで、やりましょう。

● 暴れ馬

【GM】：今回はシナリオ 2 をとばすから……、ここ
をこういじって……と。

皆さんが宴会をしているとですね、「早馬がやっ
てきたー」と騒ぎが起こります。

【マリーカ】：宴会なんてそっちのけで立木に打ち込
んでます（剣技の鍛錬）。

【ルクレチア】：アルコールチェックに失敗、生死の
境をさまよってます（笑）

【ラズロック】：顔色が青くなっていく！

【GM】：さすがは新成人

【プーチン】：そこに向かって去年同じことをやった
奴が「酒は飲んででも飲まれるな」

一同：笑

【ラズロック】：「おまえやー」というツッコミが他
の年配の人からね。

【プーチン】：ツッコミが来たら、「だから、今飲ま
れてないだろ、俺！」

一同：爆笑

【ラズロック】：たしかに。

【GM】：えー、馬から落馬したのはこんな姉ちゃん
です（公式シナリオにあるイラストを見せてる）

【プーチン】：落馬かよ！

【ラズロック】：しかも屈強な人だ

【GM】：こっちのお姉ちゃんのほうね。

【プーチン】：屈強な姉ちゃん（笑）

【GM】：村人に保護されて集落の長のネーラレイ
ンさんのところに運び込まれていきます。

【マリーカ】：いつの間にか長になってる（笑）

【プーチン】：実は長だった

【GM】：長というか、この辺のブロック長、区長さん。

さて、翌朝王女様……ん？

【マリーカ】：あれ、今「ん？」って。（笑）

【GM】：翌朝、その娘さんがですね

【ルクレチア】：その人、どこかで見たことあるよな
……って、あだし酔っ払ってる最中だ。

【マリーカ】：まだガンガンしてフラフラしてるん
です

【GM】：君たちはネーラレインさんに呼びつけられ
て娘さんが寝かされてるベッドの側に招かれています。

【ルクレチア】：頭痛い、頭痛い。

【マリーカ】：その横に寝てるんじゃないか、下手
すると（笑）

【GM】：この方はまあ、ナリック王女様です。城が
疫病に襲われたってことで助けを求めて早馬でここ
まで来たと。

【マリーカ】：「疫病？ 私じゃ役に立たないわね」

【ルクレチア】：「うーん、うーん、頭痛い」

【GM】：この疫病はですね、17 歳以上の大人だけ
がなる疫病だそうで。

【マリーカ】：危なかった……（16 歳）

【GM】：お城は機能不全になってますね。

【ルクレチア】：もしかしてももとは 13 歳以上の
大人って書いてなかった？

【GM】：書いてないですよ。ももとはただ「大人」っ
て書いておいた。

【ルクレチア】：そっか、なるほど。じゃ、大人じゃ
ないのか、我々は。

【GM】：成人であって大人ではないのだ

【ルクレチア】：なるほどなるほど。

【ラズロック】：なんだそりゃ。

【マリーカ】：それが大人の世界の会話か（笑）。

【プーチン】：じゃ、うちの長……誰だっけ？

【ルクレチア】：ネーラレイン？

【プーチン】：そこに向かってニヤリと「ボス、[最
後の奇跡]の使いどころです」

【GM】：「んー、私はクラスが戦士なのだ」

【マリーカ】：いやたぶんこの人は「俺が唱えても出
目がずっと 4 だ。まだ終わろうとするときではない」

【GM】：トスカ城ってところからここホープの街ま
で早馬でてけてけ逃げてきたそうで

【ラズロック】：ばかっらばかっら

【GM】：馬さんは泡吹いて絶命しております

【ルクレチア】：あわあわ……、で、我々のいるところは？

【GM】：このホープの街ですね。ここの町外れの寂れた集落です。

【ルクレチア】：女神の洞窟のあるのは……？

【GM】：ホープから南西のユマの村の裏山にもありますが、地図に描かれてないけれどこの集落の外にもありますよ。ユマの村のほうにあるのは公式シナリオで使われてる洞窟ですね。

【マリーカ】：今回、公式シナリオじゃないですからねー。

【GM】：公式シナリオだと、リプレイにしても公表するのにいろいろ権利関係の調整必要だしね。

【ラズロック】：めが（みの）どうくつ

【GM】：めがどうくつはそこら中にあるということ。

【プーチン】：振り向けば奴がいた。

【マリーカ】：GMがあるといえば、ある。

【GM】：ネーラレインさんは床板を外すとそこにあった女神像にお祈りしたあと（これも女神の洞窟の亜種）

【プーチン】：なんでそんなところに（笑）

【ルクレチア】：たまにドラゴンが襲撃してきて「女神を崇めている奴はいねーがー？」って……

【GM】：いえいえ、彼らドラゴン族も女神様を崇めてるんですよ。

そういえば、女神様、女神信仰自体を不快に思っている存在って、設定されてなかったような。シンプルな世界観を目指していたからなんでしょうけれど。

【GM】：で、なんだっけな。前線にある城を説明したくて地図を出したんだ。

【マリーカ】：「デーモンアイ」の真ん前ですか

【GM】：この国はデーモン族とドラゴン族の緩衝帯にちょうどお城があるんですが、大人たちがまともに動けなくなったんでお城がほとんど機能しなくなった。

【プーチン】：今が篡奪のチャンス！

【GM】：残った者たちは、旗とか炊事の煙をガンあげて、まだまだ元気だぜー、とアピールしていますが、それがばれたら大変です。それがばれるまでに疫病をどうにかせなあかん。というわけで、王女様がですね、ホープの南にある「エルダの森」にいるという、先のデーモン戦争を生き延びた隠者様のところに助けを求めに来たというわけで。

ネーラさん曰く「Youたち、護衛は頼んだぞ」

【マリーカ】：「護衛？ 護衛だったら役に立てるかもね。疫病相手に剣を振り回すのはできないけど、護衛ならね」

【GM】：護衛？ 護衛じゃなかった。4人パーティだから護衛じゃなくて、王女様は大事な身なので隠者様のところに行くのは君たちの役目と。疫病の対処方法を学んできてくれ、と。成功すればこの国の英雄への道まっしぐら！ 金貨3枚どころか、6枚、7枚も夢じゃない。

【プーチン】：また少ねえ（笑）

【ラズロック】：一桁かよ（笑）

【GM】：とりあえず領主のガイさんは空いてる城を守るために手勢50人を率いてお城に向かっていきますので。中に入ると疫病がうつるので外で待機だそうです。

【プーチン】：なんか手勢50人って焼け石に水じゃないかという気がするのですが、気のせいでしょうか。

【GM】：領主様からは「お主たちの働きに期待しているぞ」という言葉を頂戴しているので、この立派な剣（+1）が預けられてます。

【マリーカ】：張飛とか呂布みたいなのを50人つけていったんですよ、きっと。

【プーチン】：呂布みたいなのは、裏切るじゃん（笑）

【ラズロック】：張飛で。

【ルクレチア】：もしかしたらドラゴン族やデーモン族も50人ずつしかいないのかなー。

【マリーカ】：マリーカとしては昨日の夜帰ってきてから「おまえもうさっさと出ていけよ」と親に言われているので、「いーんじゃないの、別にこの村に用はないし」

【GM】：では、戦士殿よろしく、と+1の剣が渡されます。

【プーチン】：あーなんだ、魔法使いにしか使えない+1の剣じゃないんだ。

【マリーカ】：化粧品とかもらってもあまり喜ばないけれど、剣だとすごく喜ぶ

【プーチン】：にたあ、って感じ？ 鮫のようとか。

【マリーカ】：「これはいい剣ねえ。くれるっていうなら貰っておくわ」と喜んでる

【GM】：「じゃ、よろしくー」

【プーチン】：なんか軽いなー。

【GM】：（重々しく）「じゃあ、よろしくう」

【マリーカ】：とりあえず「私は貰っちゃったから行くけど、ほかの人には私じゃなくて、ちゃんと聞きなさいよ」

【プーチン】：「行ってらっしゃ〜い」（笑）

【ルクレチア】：「頭痛いー」ぐたー。

【プーチン】：頭悪いー、ぐたー。（笑）

【ラズロック】：そんな状況見て「頭が痛いー」（笑）

【プーチン】：別の意味で（笑）

【ラズロック】：うーん、〈格好つけ〉がなくなっちゃっ

たからなあ。大人の儀式も終わっちゃったし……

【プーチン】：そうそう、大人の階級のぼってるんだ(笑)

【ラズロック】：〈クール〉で〈現実主義者〉で〈ギャンブル好き〉なので勝てるギャンブルしかない(笑)

【プーチン】：それギャンブルじゃねえ(笑)

【ルクレチア】：ギャンブルやって負けまくった

【ラズロック】：だって〈現実主義〉で〈ギャンブル好き〉といったらねえ……、もしくは経営するほう。

一同：笑

【プーチン】：それだ！

【マリーカ】：競馬はやらないけど、賭け将棋はやるんですね、胴元で。

【ラズロック】：胴元でね。

【GM】：とりあえず、あと土瓶を1本渡してくれます。

【ラズロック】：土瓶蒸し★

【GM】：この中にはヒーリングポーションが1回分入ってる。売れば金貨25枚になるし、飲めばHPが全快する。希望するなら持っていったいい。

【プーチン】：ええと、ぱっと受け取って「はい、これ君の報酬。で、俺の報酬は？」(笑)

【GM】：一人1個ずつ出さないといけないの？(笑)

【ラズロック】：たしかにそうなる

【プーチン】：そうなると「あたた……、ボス、急に腹が痛くなりました。なんか貰えば治るかもしれません」(笑)〈意地汚い〉んでね

【GM】：んー、王女様への紹介状を書いてくれます。

【プーチン】：王女様への紹介状(笑)。……で？ えーと、紹介状の中を見て、一回封を切って中身を確認。「この者を斬ってよい」とか書いてあるか確認？(笑)

【GM】：要約すると「この者はすごい」と書いてあります。

【マリーカ】：すごいあとに何がつながるかによるよね。

【GM】：「親衛隊にとりたてるもよし、褒美あげてくれてもよし、無視してもよし」

【マリーカ】：殺してもよし

【ルクレチア】：カウンタースパイに育てるもよし

【マリーカ】：「この者は信じがたいほどの愚か者だ」とか。あれ？

【ラズロック】：ん？ どうしようかなって。

【プーチン】：最後の「無視してもよし」は消しておく(笑)

【ルクレチア】：むしろ積極的に取り立てるべし、とか。

【プーチン】：「ボスー、ちゃんと書かないと腹痛収まりません」(笑)

【GM】：ころころ、あと薬草が2個渡されますね。1個使ってお腹治そうね。

【マリーカ】：そんなごねてる間に私はさっさと行く

準備を整えているので。

【ラズロック】：薬草1個か……

【ルクレチア】：「頭痛いなー、ポーション飲みてえな」と思いつつ、今使うのはもったいないので我慢して。

【マリーカ】：データの痛くないのでまだ飲まないぞ！ みたいな。

【プーチン】：飲もうとすると止めるんだよ。「それを飲んでも頭が痛いのは治らない」(笑)「二日酔いを治すのはポーションではなく水だ。水を飲め」

【マリーカ】：あとはPLが治ったと言えば治る(笑)。

【ルクレチア】：さて、移動します。

【GM】：じゃ、森に着きます。

一同：はやーい。

【マリーカ】：誰が着いたかわからないけれど、着いた。

【プーチン】：そして、隠者の話を聞いて俺たちは国の英雄になりました

【ラズロック】：はやいー

【ルクレチア】：じゃ、レベルあげるぞー

【マリーカ】：という夢を見ました。

【ルクレチア】：これが噂に聞く一炊の夢というやつか。夢の中の自分が本物か、夢を見ていた自分が本物か。

●エルダの森

【GM】：というわけで、森でございまーす。森はダンジョンっぽくなっております。茂みがひどく混み合っていて壁のようになっていて通り抜けられない。

【マリーカ】：「この茂み通り抜けるべからず」と書いてあるとか(笑)。で、今どの辺？

【GM】：かなり奥ですね。ルールブックの地図の「エルダの森」の「ル」の辺り。ちょうどダンジョンシートのF3の辺りです。

【マリーカ】：F3？ さっきと同じようなところからスタートなんだ。

【GM】：入口はF3って決めた！

基本セットのシナリオでもわりとF3スタートが多かった印象があります。

【GM】：エルダの森の奥深く、そこに鬱蒼としたエリア、ここら辺が隠者が住んでいるという庵のある辺りだという。森は鬱蒼として生え茂っていて道からはみ出して歩くのは難しい。

【プーチン】：その辺の大きな石をひっくり返して、「隠者ー」と探そう。

【GM】：それでも3～5mくらいの足場を確保できそうな感じで道が続いています。

【プーチン】：隠者～

【GM】：というわけで、F3へようこそ。このマスは奥に道がつながっています。

【プーチン】：右壁、左壁は通れますか？
 【マリーカ】：右茂み、左茂み。
 【ラズロック】：美しいで「茂美」かも？
 【GM】：通れませんね。でもって、特にぱっと見、特徴的な足跡はなさそうです。森の獣が利用しているようで、大小様々な足跡がありますね。
 【マリーカ】：で、結局、誰か来てるのかな？
 【GM】：じゃ、サイコロを振ってみー。
 【マリーカ】：いえ、足跡などではなく、みんな来てる？
 【プーチン】：んー、なんだ、仕事終わったらちゃんと褒美・金を渡してくれと書いてもらってようやく腹痛収まったんだよね。
 【ラズロック】：来てますよー。
 【GM】：ま、お城が責任もって払ってくれることに
 【ルクレチア】：水飲みながらついてきてます。
 【GM】：横になってたルクレチアさんの指にインクつけて判子代わりに押されてると。
 【プーチン】：国王が「大儀であった」って言って、以上、褒美。声をかけてやったじゃないかって（笑）。
 【GM】：名誉なことです。
 【ルクレチア】：名誉なことです。
 【マリーカ】：「この俺が貴様に仕事を与えてやったんだ。感謝してしかるべきではないのか」
 【プーチン】：たしかに声をかけてやった、だね。
 【マリーカ】：仕方がない、「声をかけてやった」で追加報酬だ（笑）。
 【GM】：隊列は前回と一緒？
 【マリーカ】：いっしょ。
 【ラズロック】：変える理由もない。
 【マリーカ】：真っ直ぐ進むくらいしかないんだけど、リーダーリーダー。
 【ラズロック】：真っ直ぐ進む。
 【マリーカ】：あっ、リーダーいた。よかったよかった。
 【GM】：えーと、ルクレチアさんはルクレチア・アイが光る。サイコロ1個振ってください。
 【ルクレチア】：ルクレチア・アーイ！
 出目4+レベル修正2で6。さらに簡単だったらプラス、難しかったらマイナス。もちろん、簡単な判定だよな。
 【GM】：地面に、先程の儀式の洞窟で見つけたような重い足跡が見つかりますな。
 【マリーカ】：重い大ネズミ？
 【GM】：もっと重そうな二本足生き物の

足跡。
 【ルクレチア】：えーと、それは焦げ目のあったところにあった足跡、なるほど。
 【ラズロック】：デーモンでしたっけ。ドラゴンプレスじゃなかったっけ（笑）
 【プーチン】：いやー、大失敗してたんで。
 【ラズロック】：あっ、そっか。
 【ルクレチア】：勉強しなおしたんだよね
 【プーチン】：「それデーモンのやつだったよ」ってのに「ニアピンか」と返そう（笑）
 【ルクレチア】：では、先に進みましょう。

●立て札

【GM】：E3でーす
 【ルクレチア】：リーダー、リーダー。先進みますよ。
 【GM】：右茂みが茂みで、奥と左に道が分かれてます。

シナリオ名：森の隠者 レベル：3

A

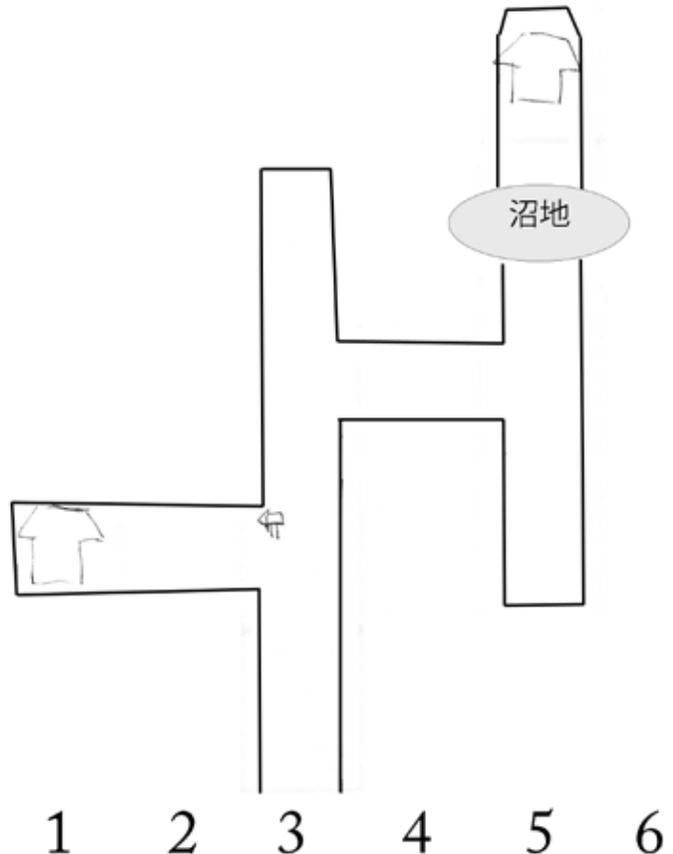
B

C

D

E

F



【マリーカ】：今回は事前情報がないからなー。

……報酬の交渉に疲れたGMが出し忘れたという説が、最近の研究者の間で広がっています。

【GM】：左奥隅に立て札が立っていて、矢印が左に据えられています。

【ルクレチア】：「この先渡るべからず」

【GM】：ころころ、ワンダリング遭遇は特になし、と。

【プーチン】：左に行ってみると「バカめ」と看板がある。

【マリーカ】：「ジュラシック・パーク」の看板のようにくるくると回った形跡があるとか。

【ラズロック】：「どっちだよ」と叩くとまたまわる(笑)

【GM】：まあ、矢印側には字が書いてあるけど、どうでもいいよね？

【マリーカ】：いや、よくないです。「この先危険」とかだと大分違うんで。

【ルクレチア】：「この先、隠者」とかね。

【GM】：「ジョセフの家」って書いてありますね。

【ルクレチア】：ジョセフって誰だー？

【GM】：あっ、隠者の名前伝えてねー(汗)。

30年前のデーモン戦争で生き残った英雄は4人いまして、この国の王様ヤー、お城にいますね。騎士ガイ、

【マリーカ】：きちがい(笑)

【GM】：ホープの領主ですね。魔法使いだった隠者さんがジョセフさん。司祭だった人がヤコフさんといって、公式キャンペーンシナリオのスタート地点にいます。

【マリーカ】：ジョセフ、多分これが隠者。まあ、行ってみる？

【プーチン】：立て札を調べてみてから行ってみたい。

【GM】：そんな感じで立て札に注目していると、その下の地面に赤い木の実がたっくさん落ちているのが見えますね。

【ルクレチア】：何の木の実でしょうね？

【GM】：頭脳行動～振るまでもなく……なんてん

【マリーカ】：何点？

【GM】：南天の実

【マリーカ】：南天のど飴の南天ですね

【ラズロック】：南に天の。

●マップ内の各マスの呼称について

東西南北に関係なく、各マス内は右の呼称名によって、呼ばれている。

【GM】：あと、そのなかに2、3個赤いビー玉が混ざっているけど。まあ、気にしなくていいよ。

【プーチン・ラズロック】：ビー玉？

【ラズロック】：ビードロでできた玉ってことですよ？

【GM】：ええ、ガラスでできた玉ですね。

【マリーカ】：ふつうに「これ、木の実じゃないよ」

【プーチン】：ビー玉はこの世界でふつうにあるものじゃないですよ？

【GM】：こんなところで転がっているものではないですね、土瓶使っているくらいですからね。

【ルクレチア】：1個サンプルとして持っていってみるか。

【GM】：えーと、ルクレチアさんか握ったのは。では、ひんやりしてますね。

【マリーカ】：ひんやりしてる

【GM】：戦士、盗賊ならそんな感触ですね。

【マリーカ】：じゃ、ぼい

【ラズロック】：ぱりん

【プーチン】：いやいやいや

【GM】：割れちゃいました

【マリーカ】：「別にいいや」というと意地汚い人があとで売れるかもとか思っちゃったり(笑)。

【プーチン】：てか、落とすくらいでそう簡単に割れねえだろ、ビー玉は。

【マリーカ】：地面がよっぼど変か、ですよ。

【GM】：ぱりん、って宣言されちゃったからなあ。ま、ほしければサイコロ1個の半分くらい手に入ります。

【プーチン】：2個

【ラズロック】：科学的探求心のために、ん？ 科学的じゃない？





【GM】：頭脳行動かな
【マリーカ】：とりあえず、強度を確かめるんで、ナイフで突っついてみます。どんくらいで壊れますか？
【ラズロック】：傷一つつかない！？（笑）
【マリーカ】：なんだって！？（笑）
【GM】：HP 3点くらいありそうですね
【マリーカ】：なるほどなるほど、なかなか硬いな。がつつ、がつつ、がつつ、あつ、割れた。
【プーチン】：あつ。
【GM】：3点ですから、ふつうのガラスより硬そうですね。頭脳行動は2+2で4だからなんか魔法がかかっているような気がしたけど、まあつまるどころガラス玉だなーって感じかな。
【ラズロック】：どのみち、多少稀少な価値のものだろうから
【マリーカ】：あとで売れるかもーって、ざくざく集めるんですね
【ラズロック】：1Dの半分、ころころ、3個
【マリーカ】：3個、2個と集めている二人だった。「ねえ、さっさと行くわよ」
【GM】：ルクレチアさんはもうちょっと何かしたいようで。
【ルクレチア】：1個壊す行動くらいで。なんだったら、もう1個壊しておこうかな。
【プーチン】：なんで？
【GM】：単に壊したいとか。
【マリーカ】：破壊衝動にとりつかれている？
【プーチン】：そんな年頃？

【ルクレチア】：〈乱暴〉だから
【ラズロック】：〈思慮深〉く調べようとするんだけど、〈乱暴〉だから壊しちゃう？
【マリーカ】：さっさと先に進みますか。
【ルクレチア】：どうしようどうしよう、PL的に変なものを連想しちゃってさ。
【プーチン】：「こ、これがパールシード！？」
【ラズロック】：それは違うと思う。
【GM】：ちょっと違いそうですね。さて、どっち行く？
【マリーカ】：とりあえず左でいっか？
【ラズロック】：矢印通りに。
【マリーカ】：俺から見て左だよ、とか（笑）。
【ルクレチア】：ビー玉ある分全部集めて、その辺に埋めておく。
【GM】：ほー。
【マリーカ】：大切なものを（笑）
【ルクレチア】：あとで見つけやすいようにその辺に杭でも刺しておこう。こんな感じでいいよね？
【GM】：ま、ルクレチアさんの見つけた分についてはそうやったけれど、他の人の分については各自持ってくということで。
【マリーカ】：自分は持ってないけど。「そんなことより行きましょうよ」
【ラズロック】：このマスの真ん中では特に注目すべきものはないんだよね、うーん。

●池の東

【GM】：ではE2でございます。道が東につながっております。左奥隅からE1に向かって池が広がってますね。池の畔にこんな感じの白衣を着たかっこのいい兄ちゃんがあります（イラスト参照）。
【マリーカ】：かっこのいい？「誰？」
【GM】：「このドクトルVを知らないのか」
【プーチン】：知らねー
【ルクレチア】：PLは知ってるけど、PCは知らない。伏見健二さんだなんて知らない、俺。
【マリーカ】：キャラクターもPLも知らない。
【ラズロック】：知りません
【GM】：「お前ら、無学だなー」ぼやかれています。
【プーチン】：でだ、「誰？」（笑）
【GM】：「森の賢者を名乗る生意気な爺さんと勝負中なんだ。お前ら、邪魔だ」
【ルクレチア】：え？ 何の勝負？
【GM】：「お前らになぜ教えねばならん。ここの池の主をどっちが先に捕まえるかという勝負中だなんて誰が言うか！」こいつの奥にですね、人間が2、3人は入れそうな大きさの銀色の樽が横たわってお

りまして、その樽の表面から水蒸気がぷしゅぷしゅぷしゅとたくさん噴き出しております。

【プーチン】：それはそれとして、「ジョセフさんはどこ？」

【GM】：「ここの池の奥に……（割り込まれる）」

【ルクレチア】：いるだなんて、俺は口が裂けても言わないぞ」（笑）

【GM】：「我が輩は忙しいからな、そんなことを教えてやる義理はあるまい」

【マリーカ】：「この池の奥にいるのは間違いなさそうね」池の周りを回ろうかな。

【ルクレチア】：さっきのビー玉を見せてみたら？ドクトルVに。

【GM】：ドクトルVのサングラスが不気味に光ります。「おー、それはちょうどいいパーツの材料。売ってくれー」

【プーチン】：「いくらで？」

【GM】：「まあ3つ以上あれば嬉しいんだが」1つ当たり金貨1枚で引き取ってくれそうですね。

【ラズロック】：3つ以上ならボーナスがつきそうですね

【GM】：「この赤色の蒸発装置に使うガラスが足りなかったんだ」

【プーチン】：「なくてもいいの？」

【GM】：「あれば勝負が容易になるが、なくてもこのドクトルV、必ず勝利は間違いなし」

【プーチン】：「じゃ、いらねえんじゃねえ」（笑）

【マリーカ】：「それに別にあなたに用があるわけじゃ

ないし」

【GM】：「3つ以上持ってきてくれれば追加報酬がと、シナリオメモに書いてある」

【マリーカ】：「まあ、あなたに用があるわけじゃないから」とつかつかと歩き出しそうな人がここにいるんだけど。

【プーチン】：何個あるの？

【ラズロック】：3つ。

【プーチン】：「俺2つ持ってるんだけど、お前3つ持ってなかったっけ？」

「これで5個だな、でもいいらしいから」（笑）

「ほんとにほしいっていわないもんな」

「ほかで売ったほうが高く売れそうだし」

【GM】：「まあ、お前たちが譲りたくないというのならそれはそれでかまわんが」

【ラズロック】：お金以外で何か現物と交換できないのかな？

【GM】：「おっと、こんなところに余っているナイフ（盗賊用ソード）+2、スタッフ+2があるなあ」

【ラズロック】：スタッフ+2か（笑）

【ルクレチア】：私のナイフは+1しかない……

【プーチン】：ナイフ+2になると何が起るのかなー？

【GM】：出目が更に+1されます。「あと、この握りを捻るとなんとライトが」

【ラズロック】：いいな、いいな、それ。

【GM】：「ただし、**降魔機関**を使っているのちょっと運が悪いと（後略）」



降魔機関とは「ギア・アンティーク」（伏見健二氏の考案したスチームパンク世界を舞台にした冒険譚群）に出てくる、一部の人類が制御しているような気になっている（完全に制御できてない）すごいエネルギー機関です。周囲のものを変容させていく邪悪な降魔の力を使った機関です。降魔の力自体はその隣の世界の「ブルーフォレスト」の世界にも出てきます。

【マリーカ】：+2のナイフは150金貨だそうです（ほしい）

【プーチン】：「仕方ないな、お金は入り用だから物々交換でいかがですか？」（笑）

【マリーカ】：さすが<意地汚い>、お金に換算すると……

【ラズロック】：むしろ、あれでしょ。「今あるのは現物では5個しかない、ただあった場所を知っているから、集めて埋めた。これ全部でスタッフとナイフもらえないかな」

【プーチン】：いくつ埋めたか振ってみたら？

そういえば、埋めるときにルクレチアさんは個数決めのサイコロを振ってませんでしたね。

【ルクレチア】：へい。ころころ

【GM】：1 出るー

【ルクレチア】：1 です。そのほかに割ったやつがあるだろ。

【ラズロック】：割れてもガラスとして使うには関係ない。

【マリーカ】：むしろ割れてたほうが都合がいい（笑）
物々交換したいなー

【GM】：っと、そろそろ E 1 へ移動かな？（笑）

【プーチン】：いやいやいや。

【マリーカ】：多分交換したほうが強くなるよ

【ルクレチア】：さっき埋めたやつと割れたやつを差し出すけど。じゃ、交渉係。

【ラズロック】：欲しがってた 5 個、+αとして……

【GM】：そうなると、6×2で12枚の金貨を出してくれます。

【プーチン】：12枚の金貨だと2枚とって「これは……」

【GM】：あと、ナイフかスタッフ好きなほうをどうぞ。

【ラズロック】：スタッフがほしいー

【マリーカ】：あなたはそうだ（笑）

【プーチン】：スタッフをとって、「12枚の金貨とスタッフのどちらかー？」

【マリーカ】：ちなみにスタッフで殴る機会とナイフで切る機会、どっちが多い？

【ラズロック】：いや、+（プラス）だから、魔法の出目にも有効？

【GM】：殴るときの戦闘マトリクス表だけです。

【マリーカ】：じゃいらねえや、と投げ出しそうですね（笑）。

【GM】：あと、懐中電灯にもなりますよ。

【ルクレチア】：それでも半額で売れば。

【プーチン】：だったらナイフを使って今のナイフ+1を売ったほうが。

【ラズロック】：ナイフの+2を貰って、そのナイフ+1でスタッフ+2と交換しないかと持ちかける

【ルクレチア】：多分、断られるなあ

【プーチン】：いらねーって。

【マリーカ】：多分この人ナイフ使えない。

【プーチン】：今、どんな感じで差し出してるんですか？

【ルクレチア】：両方ぶんどる？

【プーチン】：ありがとう、って両方とろうかと（笑）。

【GM】：カ一杯ひっぱりかえす

【プーチン】：よし、今だ。金貨奪えー。

【マリーカ】：そろそろ、ほっぽって、「いい加減にしなさい」って怒ります

【GM】：そういう粗相をすると、後ろの樽がオートモードで動き出しますよ。

【マリーカ】：がちゃんがちゃん。ういーん、だらだらー！

【ルクレチア】：動き出すのはいいけど、奪う。

【マリーカ】：「いい加減にしなさいよー」

【GM】：フランスマンドリン号特別マトリクス表つてのを準備してあるんですよー。2D6を振っててもいいですよ（ニヤリ）。

【ラズロック】：それならふつうにナイフ+2で妥協かな。

【ルクレチア】：ほお。

【マリーカ】：ものすごくぼったくりしてるけど（笑）

【GM】：うりゃー、ころころ、11。〈トローラー古技術 表現しがたい音と光に包み込まれ、世界の戦いの繰り返しを見させられる〉絶望するよ。

【プーチン】：絶望はしてもお宝は握ってるよ（笑）。

【GM】：〈絶望した君は 40 ダメージ受け、キャンペーンシナリオの大ボスの背景を知ることができるかもしれない〉

【プーチン】：まあ、40ダメージを受けたらふつうに死ぬけどね。

【ルクレチア】：うん、死ぬねー。

【プーチン】：じゅわ。キャンペーン完。

【GM】：足元にそんな謎の光線が突き刺さります。樽から飛んできた。

【マリーカ】：まあ 40 っていう破壊力が頭に刻み込まれる。

【GM】：「おー、トローラー古技術が暴走した」

トローラー古技術というのは「ギア・アンティーク」世界の古代文明の名残です。わりとなんでもあり。

【マリーカ】：暴走じゃなくて、わりと正当な発動だと思う。

【GM】：「古技術関係の回路を組み込んだ記憶はないのだが、自己進化機能が順調に機能しているようだな」

【ラズロック】：じゃ、このガラスを使ったら暴走が解除されるかもしれませんがねえ（笑）。

【マリーカ】：マリーカさんがそろそろ「早くー」って言ってますよ（笑）。

【ラズロック】：ナイフ+2と交換。

【GM】：はい、交換しました。

【プーチン】：それで、5個渡して、「こっこの残りはどうすんの？」

【GM】：残り1個？

【プーチン】：1個とくず。

【GM】：それは金貨2枚ですね。

【マリーカ】：拾った人が持ってけばいいんじゃない。とりあえず、この人（ルクレチア）はシーフ用の武器を手に入れてご満悦かもしれない。

【ルクレチア】：満悦だから

【プーチン】：ご満悦だから、それで、ってやって。「えっ、崩れたほうは」

【GM】：崩れたほうは特に価値を認めてません。
【プーチン】：金貨2枚で「そうか」ってやって、ふつうにポケットに入れるよ（笑）。
【ラズロック】：ラズロックは敢えて見逃します。
【ルクレチア】：全部交換したの？
【プーチン】：だからあのう、「これはくずで要らないってさ」ってバラバラってこぼしてご満悦の君には金貨を渡さない。
【ルクレチア】：それはもう、+2もらっている時点で
【ラズロック】：リーダー一番割食ってるなあ（笑）。
【マリーカ】：その金貨2枚は潤滑油みたいなもんですから（笑）
【ルクレチア】：そうそうそう、ある意味賄賂だよ。
【GM】：このドクトルVは樽に向かっていろいろスパナを振り回したりと、改造をはじめてます。カーン、カーン、カーン！
【マリーカ】：その音、スパナの使い方間違ってるから！
【ラズロック】：スパナ乱舞！
【GM】：ぐりぐりやったり
【マリーカ】：なんでもスパナでやっちゃうんですよ。ねじをぎゅーんと回したり。
【ラズロック】：そのまま進みましょうか
【マリーカ】：行こうか。

●木製の掘っ立て小屋

【GM】：E1。木製の掘っ立て小屋が建ってます。で、行き止まり。



【マリーカ】：マス全体が小屋？
【GM】：ですね。右奥隅にE2からの池がつながってます。小屋は真ん中辺りかな。周りは茂みで囲まれていますね。
【マリーカ】：（サザエさんの）エンディングで、マスオさんがドロップキックで入っていきそうな小屋だ。池以外は小屋だけですね。「ジョセフ'sハウス」なんて書いてあるの？
【GM】：特に書いてありませんね。生活感の感じられないきれいな、とてもきれいな掘っ立て小屋ですね。
【ルクレチア】：表紙にVとか書いてある？
【GM】：書いてませんって。
【ルクレチア】：誰の家だ？
【GM】：ジョセフって表札はある。「よろず悩み事承り候」とか。
【マリーカ】：じゃ、ごんごん。
【GM】：「おー、すまんのう、今、わし忙しいんじゃ」
【プーチン】：ごんごん！
【マリーカ】：じゃ、開けた。
【GM】：鍵がかかっていますね。
【ルクレチア】：じゃ、開ける（笑）。
【マリーカ】：「こっちも急いでるんだけど」
【プーチン】：「国滅ぶんだけど」
【マリーカ】：「勝手に滅んどけ」とか？（笑）
【ルクレチア】：ちなみに（開ける判定の）修正は？
出目5+レベル2で7。
【GM】：-1の修正がありますね。
【ラズロック】：「めんどくさくて手が離せないのなら勝手に開けるよー」
【ルクレチア】：1引くと6で、カチッと音がして開いた！と思ったが、喜んだ弾みでまた閉じてしまった。何をやってるんだ。
【GM】：そんな感じなので、開きませんね。でもって、仕込み針の罠にひっかかってしまいます。
【ラズロック】：触るだけなら大丈夫だったんだ。
【ルクレチア】：3点ダメージくらいました。「ぎゃー」
【GM】：あと毒のバッドステータスをくらいます。
【マリーカ】：どんな効果でしょうか？
【プーチン】：死にます（笑）
【GM】：えーと、次の戦闘ラウンド、って今は戦ってないから、すぐに効果は消えます。
【マリーカ】：あぶなかつたらしい。
【ルクレチア】：とりあえず「ぎゃー」っていつて倒れます。
【マリーカ】：「大丈夫？」
【ルクレチア】：「もうだめ」（笑）
【マリーカ】：「もうだめ、って答えられるってこと

はまだ大丈夫ね」とドアに向き直ります（笑）。

【ルクレチア】：ちなみに再挑戦はできますか？

【GM】：まあ、可能ですが、再挑戦前に扉が開きます。「元気のいい若者たちだ」（とイラストを出す）じいさんが小さな樽を抱えて出てくるよーん。

【マリーカ】：「相談があるのですが」すぐぞ単刀直入に。

【GM】：「この樽の中にわしのつくった万金丹が入っておる」

【マリーカ】：ばんきんたんって？

【GM】：薬物ですな。「これを飲ませればばっちりじゃ」

【マリーカ】：「なにがばっちり？」

【GM】：「ばっちりじゃ！」

【プーチン】：ばっちり……あの世にいける、じゃないよね？（笑）

【GM】：「みんな、ヌシらの助けを待っているんじゃないから、がんばるんじゃよ」といって、樽を置いて奥に下がっていく。

【マリーカ】：このおじいさんが勘違いしてなければ大丈夫そうですが（笑）

【プーチン】：一応受取ながら、「～という事情なのですが、これでいいんですよ？」

【GM】：（しみじみと）「ばっちり、じゃよ」（笑）

【ラズロック】：それしか言わない（笑）

【ルクレチア】：「これ、全員に行き渡るんすかね？」

【GM】：「えーと、急ぎの調べ物があるんでな」

【ルクレチア】：「これ、全員に行き渡るんすかね？」

【GM】：「ばっちりじゃよ」

【プーチン】：ダメだったら今度燃やしに来るので。

【マリーカ】：まあ、とりあえず、用事は済んだ。隠者がいうには大丈夫なそうだし。帰るかな。

【GM】：「あのヴェルンという若者と池の主をどっちが先に手に入れるかの……」

【ルクレチア】：そっちか……

【GM】：「で、忙しいんじゃよ。すまんのう」と奥に下がっていく。で、鍵がかけられます。

【プーチン】：鍵かかる前に足入れていいですか？

【マリーカ】：セールスマンみたいだ（笑）。

【ルクレチア】：悪徳セールスマンみたいだ（笑）。

【GM】：修正-2の汎用行動でどうぞ。

【プーチン】：ころ、4-2+2で失敗。

【マリーカ】：その前に呼びかけて「あのさー、その勝負が早めに終わったらもっとたくさん作れるの？」って訊いてみます。

【GM】：「ほっほっほ」

【マリーカ】：ん？ 答えになってねえ

【GM】：「忙しいんじゃー」

【マリーカ】：ダメだ、こいつはダメだ。じゃ、戻り

ますか。

【ラズロック】：池に〔雷撃衝波〕撃って、主を殺していいですか（笑）。妨害していいですか、くらのノリ。

【GM】：別にGMに許可を求めなくてもいいけど。ん？ 脅してる？

【ラズロック】：いえいえ、おじいさんに「ちゃんとこちらの答えないと……したくなるかもしれませんねえ」と。

【GM】：「すまんのう。今、調べ物があるんでのう」なんだか、オート回答のような感じです。

【マリーカ】：「ここは隠者の森だよ」みたいな。

【ルクレチア】：もう一度、鍵開け行動やってみようか？

【ラズロック】：いや、止めたほうがいいんじゃないすか。

【ルクレチア】：敢えてやる。出目一緒だ。

【ラズロック】：じゃ、「ぐざー」

【ルクレチア】：あー、戦闘シーンじゃなくてよかった。

【GM】：いっころ振って、ふむ、6点ダメージどうぞ。

【ルクレチア】：今回は6点！？ 残り21。

【GM】：私が振ったんじゃないぞ（責任転嫁）

【マリーカ】：振れて、いわれたんです。つまり、教唆したほうが悪いんで。

【ルクレチア】：次は扉破壊だね。〈乱暴〉なんで。

【ラズロック】：いやいやいや……

【マリーカ】：「行きましようよ」

【GM】：扉開けの魔法ってのもあるよ。

【プーチン】：扉開けの魔法という名の斧？

【マリーカ】：こっちに窓があるよ

【GM】：窓ありませんねー

【マリーカ】：すげー。

【GM】：窓がないという不思議な小屋だ。

【ルクレチア】：じゃ、煙突から。

【GM】：ないよ。

【プーチン】：外から打ち付ける（笑）。まっ、ほっておこうぜ。

【マリーカ】：帰りましよう。

【ルクレチア】：どこまで戻る？

【ラズロック】：とりあえず……

【マリーカ】：E3までは確定でしょう。

【プーチン】：帰る前にもう一度どんどんってやって、「俺たちはどうでもいいんだけど、E3から奥のほうにデーモンっぽい足跡があるんだけどOK？」

【GM】：「ほっほっほ」

【プーチン】：「ほっほっほ」とかどうでもいいんで帰る。

【ラズロック】：ま、帰る。

【マリーカ】：せめてそこで「ふおっふおっふおっ」とかなってくれば。というわけで、とぼとぼ帰っ

で行きます。

【プーチン】：まあ、もの貰ったらふつうに帰るよなあ。

【マリーカ】：んー、特にそれ以上いわれてないし。というわけで、E3まで帰ります。

【ルクレチア】：そういえば、ヴェルン卿何してます？

【GM】：組み立ててます。「また赤い玉があれば火力は倍増なのだがな」

【ラズロック】：火力！？ もしかしたら、この2人と戦わなきゃいけないんだよ？

【プーチン】：じゃ、そのつくってるこいつにも「奥にデーモン行ったんぼいんで」と歩きながら横でボソッと書いておいて帰る。

【ルクレチア】：っていうか、ヴェルン卿がつくってるのデーモンの武器じゃねえの？

【GM】：科学技術はこの世界ではデーモンのものですからなあ。

【マリーカ】：そうなんだ。そういえば、そんなこと言ってた。

【ルクレチア】：ということはこの人、敵か？

【GM】：彼の自慢話から抽出すると、デーモンから奪ったそうですよ、この技術は。

【ルクレチア】：うーん、なるほど。

【GM】：実は異界から来たんだ、とかしまいにゃ言い出しますよ。

【マリーカ】：あっ、やばい。そろそろ電波になってくる。

●立て札、再び

【GM】：そういえば、樽を抱えているのはプーチンさんでしたかな？

【マリーカ】：僧侶的に持ち歩いてるんでしょう。

【GM】：抱えていると中からがさごそ音が聞こえた気がするだけです。まあ、気にしなくても。

【マリーカ・プーチン】：なに？！

【マリーカ】：がさごそ音がする薬はやだな。

【ルクレチア】：万金丹って言ってたよな。

【マリーカ】：中、見てみたら？

【プーチン】：その発言を聞くと、まずこうやって耳を当てる。するとがさごそするんだ。「ん？ なんかに聞こえなかったか？」

【GM】：樽に視線向けると音止まる。

【プーチン】：「なにか音しなかったか？」と視線をさ迷わせだすとまた音がするんですな（笑）。「なんかがさごそするんだけど」といって「中、見てみたら」といわれると「開けると効果なくなるかもしれない（笑）。これはこのまま持って行くべきだろう」

一同：笑

【ラズロック】：確かに一理ある。

【マリーカ】：でも、さっきのおじいさんの態度見ると偽物とかなんかに違ふものを渡されたようなことがありそうで、あのぼけっブリだと。とりあえず開けてみましょうよ。

【プーチン】：それじゃあの、国滅ぼしたのは俺たちじゃなくてあのじいになるだけじゃん。

【マリーカ】：まあ、そうなんだけど。

【プーチン】：責任は俺たちには、ない。

【ラズロック】：ラズロックは基本的に何もものを貰ってないので、やる気がないんで（笑）、「いーんじゃね、ガキの使いでも。言われたことだけやって、ね、いいんじゃね」〈クール〉なんで。

【マリーカ】：溜め息つきながら「じゃ、ちょっと貸して」で、ぽかっ。

【GM】：樽の栓を開けると中にはたくさん粒薬が見えますね。

【マリーカ】：あれ？ がさごそいったのはなんだろう？

【GM】：何粒かと、時々目が合ったような気がするだけで。

【マリーカ】：何粒か、目が合った？！

【GM】：目が合ったような気がして、それをじっと見ると、ふつうの粒薬ですね。

【マリーカ】：じゃ、その粒薬を手にとってみる。握っちゃうというかつまむ。

【GM】：手足が生えてたようだけど急に粒に吸い込まれるように消えていく。

【マリーカ】：「なんか、これ、変じゃない？」

【ラズロック】：「でも、頼まれたものだし」

【プーチン】：そうそう。

【GM】：なんだか生温かいですね。

【プーチン】：とりあえず、蓋をぽかっとする。で、とりあえず、「渡すときに警告すればいい」今更だけど「あの賢者様がくださったものだから間違いないはずだー」

【ルクレチア】：ほんとの賢者なのかね？

【プーチン】：知らない（投げやり）。

【ルクレチア】：容姿の描写って聞いてます？

【GM】：年寄りだ。

【ルクレチア】：わかんねー。

【GM】：そうそう、ネーラさん曰く、「あくまでもガイ様が言ってたことで私が言ったことじゃないけど、薄汚くてこすっからくて嫌味な因業じじいだ」

【ラズロック】：因業じじい？

【ルクレチア】：さっきのは因業じゃないよね？

【マリーカ】：あれじゃ、惚けた人だよな？

【GM】：「住んでるところはぐっちゃぐちゃで臭くて」

【マリーカ】：あれ？ きれいだったらしい。

【GM】：「服装もつぎはぎだらけで」
【マリーカ】：（先程出したジョセフのイラストを見ながら）結構きれいだな、あれ？
【プーチン】：人が変わった。
【ルクレチア】：まるで人が変わったようで。
【GM】：で、人と会いたくないので森の奥に住んでるそうです。
【マリーカ】：手前だー！（笑）
【ルクレチア】：人と会いたくないのに、池の主を釣る勝負に参加してる。
【GM】：看板まであるよー。
【マリーカ】：なんかあやしいかな？ さすがにちょっと。
【ルクレチア】：この看板はヴェルン卿の看板でしょ？
【マリーカ】：これはジョセフって書いてありましたよ。
なんか、聞いた話と大分違うような気がする。
【プーチン】：人が違ったんだよ、やっぱり。
【マリーカ】：ということは奥のほうに真・ジョセフがいるわけですね。「ちょっと、一応、森の奥のほうにもいってみない？」あの、「一応頼まれたこと途中で気になることあるのに放り出すの嫌だし」
【プーチン】：そうね、がさこそ言ってるしね。
【マリーカ】：がさこそがさこそがさこそ。
【ラズロック】：先リーダーはすっげーやる気のない感じで、紙に「本日全権委任状」と書いてる（笑）
【マリーカ】：投げられたっ。「そう、じゃあ、貰っておくわ。じゃ、奥に行きましょう」ずいずい。「いやだったらいってね。きくかどうか知らないけど」

●分かれ道

【GM】：D3へようこそ。ですよ？
【マリーカ】：ちなみに嫌だったら本気でいってください。PL台詞でもいいから言ってくださいね。
【ラズロック】：（小声で）だが断る！
【GM】：道がですね、奥と右に分かれています。左側が塞がってます。真ん中の地面から人の死体が浮かび上がってきて、起き上がって立ち向かってくる。
【マリーカ】：うーん、なんかゾンビとか？
【GM】：ゾンビでーす。ゾンビが4人、ん？ 4体。
【ルクレチア】：なぜ死体ってわかった？
【プーチン】：見ればわかるんじゃないか。
【マリーカ】：額に△の白紙がイラストのようについてるんじゃない（笑）
【プーチン】：頭が割れてるとかどうみたって、死体だよな。
【マリーカ】：あるいはこうやって腕真っ直ぐにして跳ね歩いているとか（笑）。
【プーチン】：キョンシーはなあ。

【マリーカ】：無茶苦茶強いですからね。ゾンビは腹減った〜って感じで近づいてくるんですかね？
【GM】：ここは通さんぞ、って感じかな。
【ラズロック】：なぜ？
【ルクレチア】：勇者は通さぬ！
【GM】：ゾンビは4体だー
【マリーカ】：それは結構いるな。
【GM】：君たちは先攻の気分。
【マリーカ】：実際は？
【GM】：先攻とれた。
【マリーカ】：大事なことなので訊いてみました。

そもそもこのシナリオはレベル3向けに作ったものをレベル2で遊ぶようにちょっとだけいじってあります。そのバランス修正は……どうかな、なんて不安がGMにあたり。

▽第1ラウンド

【GM】：ぼく、ゾンビ。ゾンビ太郎、ゾンビ二郎、ゾンビ右衛門、ゾンビの輔
【マリーカ】：意外とコミカルだ。今の「まよキン」に通じるかのような。
【GM】：ともに Adventure Planning Service ですから。これも冒険企画局ゲームですからね。伏見さんがいたときの唯一の。
【マリーカ】：じゃ、殴るか。特に何もなければ殴っちゃいますが。
【ラズロック】：ま、言葉だけで。
【マリーカ】：やばい、やる気がないらしい、リーダー。
【GM】：ゾンビは1レベルパーティーにとって脅威にならず、と書いてありますね。

ちなみに、この目安は、「パーティーにとって」であって、PC人数と同じだけ出すとちょっとよろしくないです。単純にいうと、HPがPC人数倍になるので、戦闘がすこぶる長引き、セッションが停滞する恐れがあります。

でも、このセッション時はこのことにまだ気づいてなかったわけですが。

【ラズロック】：「とりあえず火力を集中させるんだ！」と言葉だけ。
【GM】：リーダーが出るまではないってやつですか（笑）。PL側からですねー。
【マリーカ】：+2ナイフの切れ味はいかに？
【GM】：ゾンビたちは2体ずつ迫ってきますな。
【ルクレチア】：〈それ、当たったぞ。なに、かすり傷だが当たらないよりは百倍もマシさ。とにかく1ダメージだ〉とりゃ、さく。
【GM】：Aは19ダメージじゃないや（笑）。
【ラズロック】：えー！？
【プーチン】：つえー。

【ルクレチア】：かすただけでか！？
【GM】：失礼、残り19点。
【ラズロック】：伝説の剣だった（笑）
【マリーカ】：「そっちがいくんだったら」ってもう一つのほうへ。
【GM】：マリーカさんのいくほうはCとDですね。ルクレチアさんの相手がAとB。
【マリーカ】：Cに。6だから+1して7か。えーと、<風を切る音とともに！5ダメージ！>
【GM】：やっぱり違うね。残り15。後衛の皆さん、動く動かない自由だよー。
【ラズロック】：じゃ、動かない（笑）
【プーチン】：やると思った（笑）
【マリーカ】：心臓を動かしてみた、とか。
【プーチン】：あれだ。せっかくレベルが上がったから集団攻撃魔法を使ってみようかな★
【マリーカ】：A B集団、C D集団があるそうですよ
【プーチン】：敵すべてに、とあるから大丈夫だよ（笑）。
【GM】：PL側から自主的に制限つけてもいいですよ。
【プーチン】：いや、ルール通りでいいですよ（笑）
【マリーカ】：ハルマゲドンモード発動！ ん？ 2D？ チートの振り方（本来は1D）。
【プーチン】：っと、違う。[神の怒り]ころ、8。<地面が揺れ、敵は自分の武器で傷つく！ 敵全てが7ダメージ！>
【ラズロック】：てけてけてけてけっ。
【GM】：7か……。痛がってます。
【ルクレチア】：ずどーん、ずどーん。
【マリーカ】：あれ？ これが一番痛い攻撃だとまさか？（笑）
【ラズロック】：じゃ、リビングストーン
【マリーカ】：Cが一番傷んでる
【ラズロック】：じゃ、Cに。殴った。
【GM】：ん？ 殴った！？ 前に来た？
【ラズロック】：<何とか当たっているぞ。5ダメージ>。あれ、リビングストーンって投げる？
【GM】：2レベル魔法使いの称号ですね
【プーチン】：称号であって
【ラズロック】：石を投げてるわけじゃないんですね
【GM】：リビングストーン・ラズロックみたいな名乗りになるんですよ。
【ラズロック】：なんでストーン系なんだ？ まっ、いっか。殴って5ダメージ。グラップラー（格闘家）だとパワーストーン／大きい石とかになるのかな？
【ルクレチア】：魔法使いだから意思力（いし・りよく）が大事なんだよ。
【プーチン】：はいはいはい。
【GM】：マリーカさんがDの相手で、Cの相手はラズロックさん。

【マリーカ】：ぼくもC殴ってますよ
【GM】：とりあえず7点与えたプーチンさんのほうを一斉にゾンビたちは憎々しげに見つめて終わります。
【ラズロック】：終わった？ いかん、後衛だからね！（笑）
【マリーカ】：後衛の仕事って、魔法の大ダメージで前衛の目を惹きつけるってのもあるんですよ。

▽第2ラウンド

【GM】：くう、ゾンビのサイコロ振れないー
【マリーカ】：Cだ、ころころ+1だから3か。<惜しい。1ダメージだ>あれ？
【GM】：1レベルより成長してますよ。1レベルで3だったらダメージ0ですよ。
【マリーカ】：レベル2ですから
【ルクレチア】：さっきのAにほこっと。6+2だから8 <そりゃ、3ダメージだ。どうだい？ なかなかの腕前だろ？> ほこっと。
【GM】：AのHPは一桁になりました。
【プーチン】：あれ、まだ一体も倒れてねーの？
【マリーカ】：ええ、まだ。さっきの自分の出目もしよぼかったし。5ダメージだからCが倒れそうではあるのか。
【GM】：Cは残り2点ですねー。
【プーチン】：じゃ、またいく？
【GM】：HP使えー。回復アイテムたくさんあげたから使おうよ。
【プーチン】：仕方ねえなあ。ういっさー！
【マリーカ】：気合入りすぎた（さいころは落下）
【プーチン】：あー、しよぼかった。<パラパラと雹が降ってくる！ 敵全てに4ダメージ！>
【マリーカ】：いや、また、一番痛いダメージここかもしれない（笑）あとの人は殴らないという手もありますよ。

んー、手加減という宣言で、低レベルの戦闘マトリクス表を使うという戦闘オプションも面白な予感。そんな予感が、リプレイ作成中に憑りてきました。

【GM】：ゾンビCはぐちゃぐちゃになって潰れて、ぐっちょぐちょ。あとの残りみんな、HP一桁になりました。
【ラズロック】：じゃ、どうしようかな。
【プーチン】：後ろに下がって「やーって、おしまい」とか。
【マリーカ】：「俺が出るまでもなかったな」とか（笑）。
【GM】：ここで5点与えれば大活躍で。
【マリーカ】：5点与えるとむしろよくない、反撃来るから。3点くらいがいいですね。うまく加減して振ってください。と無茶ことを。
【ラズロック】：一桁ですよ。一歩下がって [爆裂

火弾]魔法を使います。

【GM】:これ単体ですからね。

【マリーカ】:Aが一番傷んでいます。

【ラズロック】:じゃ、Aに攻撃と思ったけれど、Dに攻撃。

【GM】:一番元気。

【ラズロック】:最低で6くらい出るんで。

【GM】:残り9なんで。

【ラズロック】:〈掌に発生させた炎の球を敵に放つ。火球は飛んで爆発する!12ダメージ!〉

【マリーカ】:あっ、死んだ。

【プーチン】:ど、どどーん。

【GM】:ゾンビDはオーバーキルで倒れてしまいました。

【マリーカ】:AとBは憎々しげにプーチンを見ているんじゃないかな?

【GM】:マリーカさんとラズロックさんの前のゾンビは全滅しました。残るは2体、が憎々しげにうつろな目で見つめてくれます。

【マリーカ】:うちらいつになって攻撃できんのさ、ってうつろな目で。

▽第3ラウンド

【GM】:そろそろ武器を持つのも疲れてきたぜー。とゾンビさん。

【ラズロック】:その場に落としてもいいんだよー。

【ルクレチア】:だが、

【GM】:断る

【ルクレチア】:Aをぼこる。8+2で10〈うまい具合に攻撃が相手の注意を逸らしたぞ。ラッキー、相手は次のラウンドに攻撃出来ないぜ!〉ダメージなしか(笑)。

【ラズロック】:わーい、トリッキートリッキー。

【ルクレチア】:トリッキー。

【マリーカ】:B攻撃するか。うまくいけば倒せるし。出目8。

【ルクレチア】:次のラウンド攻撃できないってことはこのラウンドは攻撃してくるんだよな

【マリーカ】:なにー、それはしまった。7点。

【GM】:Bは残り1点。

【プーチン】:その残り1点殴るね。

【GM】:前に出たっ。

【マリーカ】:ぼかっつ。ぽんぽかだ。結局殴られるの、そこな気がする。

【ルクレチア】:あれ、マリーカさん7点でしょ。

【マリーカ】:あっ、そうか。

【ルクレチア】:自分が受けたダメージの中で一番大きいダメージの攻撃主に反撃するんだし。

【プーチン】:前に出てフレイル+1でぼかっつ。〈3ダメージを与えることが出来ました〉ということで、ぐちょ。

【GM】:Bがぐちょぐちょになりました。

【プーチン】:はい、キルマーク2つめ。

【ラズロック】:さてどうしようかな?

【マリーカ】:そろそろ本気で「私が出るまではなさそうだな」といいそう。レベルが上がると消費HPもあがりますからねえ、このゲーム。

【プーチン】:でも、HPの上昇のほうが大きいので、相対的に消費は減るかな。

【ラズロック】:じゃ、ふつうに殴ります。

【GM】:自分に一番大きいダメージだから。

【ルクレチア】:あっ、Aに誰もダメージ与えてない!

【プーチン】:7点出ないでしょ。

【GM】:7点はBだから……。

【マリーカ】:Aに攻撃したのはルクレチアさん一人だけ。

【ルクレチア】:Aにはダメージ与えてないから。

【マリーカ】:となると誰に反撃だろう。

【GM】:ここでダメージ与えた人に……

【ラズロック】:与えちゃった(苦笑)

【GM】:別にやりなおしてもいいよ。この辺の説明足りなかったし。

【ラズロック】:そうか、Bは死んだのか。

【プーチン】:Aは残ってて、次のラウンド何にもできない。

【マリーカ】:このラウンドは何かするらしい。

【プーチン】:見てるだけでいいんじゃない?

【GM】:接敵しているなかで一番HPが高いのは……

【マリーカ】:はい、ABエリアに入るけどね

【GM】:そこからは殴られていないから……、ルクレチアさんに向かってゾンビパンチ。

【マリーカ】:外れっばい目だー

【GM】:〈うっかり自分を攻撃してしまった。ゾンビ自身に5ダメージ〉

【ラズロック】:これで死んだんじゃない

【GM】:ちなみに残り5と書いてある。

一同:笑

【プーチン】:もはやこれまで、って感じだな。

【ルクレチア】:腹切ったの(笑)

【マリーカ】:ゾンビはフレイルっぽい武器持ってるから、こうやってぶーんとどすん。

【GM】:ゾンビは頭が碎けて勝手に倒れ込みました。

【マリーカ】:それピンズロ。一撃死だった気がする。

【GM】:ゾンビの残骸がいっぱいです。敵はいなくなりました。

【マリーカ】:「ふーん、これがモンスター」

【プーチン】:12点使っちゃったからなあ。

【マリーカ】:「じゃ、あげる」って薬草3つくらい。
【プーチン】:その3つ、とりあえず使ってみるか。
【マリーカ】:1つずつ食べたほうがお得かと。
【プーチン】:とりあえず2つ。6ゾロが出たら2つでOK。どーん。
【ルクレチア】:おー、9。いい感じ。
【プーチン】:これでいっか。
【ラズロック】:俺も一個使っておこうかな。
【GM】:ポーション、ポーション。
【プーチン】:それはまだ早い。
【ラズロック】:だって俺、4点ですよ。
【GM】:全快になるよ。1が出たら1しか回復しないよ。
【ラズロック】:とりあえず、自分の持つてる分1回使います。ころっ、4。MAXで一す。
【マリーカ】:じゃ、どっちいこっかな? 奥っていつてたから、真っ直ぐ進みたい気分だけど。
【ラズロック】:あっ、そうだ。ゾンビの残骸一応調べてみようか。
【マリーカ】:まっ、一応調べてみる。
【GM】:ダイスを振ってくださいー
【マリーカ】:3
【GM】:死体の中から赤いビー玉が2つ見つかった。気のせいだ。
【マリーカ】:「私は正直興味ないんだけど」
【GM】:と、あと3つ振ってください。
【ルクレチア】:降魔に汚染されました。
【GM】:10? じゃ、10枚金貨が見つかります。死体まみれ、腐肉まみれ。
【プーチン】:ビー玉はぼいっとされたところを「ビー玉だ、ビー玉だ」と漁ります。……なんかキャラがぶれてる気がする。
【マリーカ】:いや、あんまりぶれてないから(笑)。「ラスト、金貨のことはあなたに任せるわ」10枚じゃら。一番任せちゃいけない気もするけど(笑)
【ラスト・プーチン】:じゃあの、「仕方がないなあ」とニヤニヤする。
【マリーカ】:資産運用だと思って渡しているけど、そうした分はドボンしちゃう可能性は全く考えていない。てわけで、先に進みたいな。
【GM】:どっちいく?
【マリーカ】:真っ直ぐ
【ラズロック】:北へ
【ルクレチア】:奥へ
【GM】:D8?
【ラズロック】:C3
【ルクレチア】:D8ってどこやねん?
【プーチン】:ないない。
【マリーカ】:いきなり、ヒュンと瞬間移動?

【ルクレチア】:マップ外です。

●茂み

【GM】:C3は行き止まりです。真ん中から奥にかけてすごい茂みが生い茂ってます。めっちゃ密集しています。
【マリーカ】:みしゅみしゅみしゅ、ん? 不自然?
【GM】:不自然といえば、ちょっとオーバーな感じはしますが、自然のバリエーションの豊富さを考えれば……。
【マリーカ】:ちょっと調べてみますか。「これは間違いなく茂みである」とかいわれたら諦めよう。
【プーチン】:なに、看板で「茂みだよ」とかかかってるの?
【マリーカ】:「調べても何もないよ」とか書いてあったり(笑)
【プーチン】:「調べる必要ないよ」
【マリーカ】:「調べちゃだめだよ」って、だんだん意味がぶれてくる。茂み、ごそごそ。
【ルクレチア】:GMはデータ呼び出し中。Now Loading... please, wait... disk:B error..
【GM】:迷彩カラーのローブを着たゴーストが現れます。茂みの中から現れました。「ん? 見つかってしまった!?!」
【プーチン】:「それは失礼した」
【ラズロック】:ということで、じゃあ!
【マリーカ】:あきらかに武器を構えてますが(笑)。じゅいーんと(イラストではチェーンソーを構えています)
【ラズロック】:そうか、森林を伐採してる最中だったか。
【プーチン】:手回しチェーンソーだけぞ。
【GM】:「ピエロ野郎に使われるうえに、こんなやつらの相手までしなきゃいかんとは」(嘆息)
【プーチン】:質問がありませう。そいつに「ピエロ野郎とは誰ですか? 大丈夫、俺たちは君の仲間だよ」(笑)
【GM】:「まあ、おまえらの足止めも仕事のうちだ」
【マリーカ】:足止め?
【GM】:ゴーストは懐から骨を取り出し地面に投げます。地面からこんな奴らがひよこひよここと。
【プーチン】:あー、自爆するやつだ。
【マリーカ】:そうだ、ピンゾロで死ぬのはこいつらだ。
【GM】:えーと、ゴーストが1体で、スケルトンが2体います。
【マリーカ】:PCの半分だよ、って書いてるんだよ。
【GM】:残念でした。PC-2って書いてあります。
【マリーカ】:PC10人いたら8体出てくる(笑)
【ラズロック】:8人って、魔法使い半分いたらあっという間に集団魔法連発で(笑)
【マリーカ】:なんてひどいパーティ(笑)。

【ラズロック】：数が多ければ多いほど効率がよくなるからなあ。

【プーチン】：きついねえ

【GM】：「デーモン族の命令系統に従うことも大事だからな」とファイティングスピリッツを見せてます。

【マリーカ】：デーモン族だと吐露した。

【プーチン】：「ほお、その後ろにいるのか」

一同：ん？

【プーチン】：「その茂みの奥にいるのか、なるほどな」

【ラズロック】：かまかけか。

【GM】：「茂みには私一人しかいないがな」チェーンソーを振り回す。

【マリーカ】：あるいは、ただの隠れ家だったのかもしれない。奥から潜眼鏡がによきと伸びてただけかもしれない。

【GM】：では、ふつうに戦いますか。

【マリーカ】：「悪いけど交渉は得意じゃないの」と剣を振り回しはじめる。いいでしょうか。

【プーチン】：いいんじゃないでしょうか。

▽第1ラウンド

【ルクレチア】：おっしゃ、いくぞー。

【マリーカ】：どんな隊列でいるんですか？

【GM】：えーと、茂みを調べたのは誰だっけ？ そこにゴーストさんが密着してる。

【マリーカ】：うおっ、密着されてる

【GM】：他の方々に向かってスケルトンたち。

【プーチン】：後衛後衛。

【ラズロック】：KOEI（ボイスロゴっぽく）

【ルクレチア】：後衛かな。

【マリーカ】：ちなみにその3人がみんな同じように後衛っていうと、なんだ前衛かってことになりすよ（笑）。スライドして。

【プーチン】：そうになったらルクレチアを蹴り出すよ。

【ルクレチア】：じゃあ、殴ります、スケルトンを。ゴーストを殴ってると、スケルトンが後衛に襲いかかっちゃうもん。

【GM】：そうそう、ゴーストさんは頭にデフォルトで貼られてる御札に「+1」と書かれてます。

【マリーカ】：+1ボーナス。

【プーチン】：それ剥がせばいいんじゃないね？（笑）

【ルクレチア】：くうまい具合に攻撃が相手の注意を逸らしたぞ。ラッキー、相手は次のラウンドに攻撃出来ないぜ！>

【GM】：Aが動けない、と。ゴーストにやりたかったな。

【マリーカ】：ゴーストに斬りかかる。えいつ。出目がさっきから腐ってる。<よし、当たったぞ、3ダメージ>

【GM】：ピーンチ。残り云十2点。

【プーチン】：またやんなきゃいけないのかな。

【マリーカ】：あれか。

【ルクレチア】：やらねばならぬ。

【マリーカ】：ちら。

【プーチン】：[神の怒り]で<パラパラと雷が降ってくる！敵全てに4！>

【ラズロック】：じゃ、本気を出します。[火焰砲射]なんで敵全体ですね。

【ルクレチア】：Fire!! 味方ごと（嘘）。

【マリーカ】：焼き払う。

【ラズロック】：ころ、<指先から熱波を放射する！敵全体に4ダメージ>

【プーチン】：ひゃー、ぼん！

【GM】：ゴーストが一番フラフラしています。

一同：あれ？

【マリーカ】：ま、いいや。こっちの攻撃終わったので、一番大きなダメージ与えたところかな。

【GM】：……4点。まあ、ゴーストさんは嫌な奴なので目の前のマリーカを殴ります。

チェーンソー+1の威力を見せよう。ころころ、<チェーンソーで殴りかかってくる。3ダメージ！>ぼくっ。

【マリーカ】：使い方誤ったんじゃないかな（笑）。いてっ。

【ルクレチア】：「チェーンソーの威力、確かに見せていただいた」

【GM】：スケルトンたちはプーチン、ラズロックをぼけーっと見つめて終わり。

ということで、君たちの番だ。

▽第2ラウンド

【マリーカ】：このラウンドは先程のルクレチアさんのフェイントのおかげでAが攻撃できないので、Bを殴ったらいかがですか。

【ルクレチア】：じゃあ、スケルトンのBを殴ります。6+2で<そりゃ、3ダメージだ。どうだい？なかなかの腕前だろ？>

【マリーカ】：さっきからなかなかの腕前を披露しまくり。

【GM】：残り云十云点。

【ラズロック】：二桁はあるということですね。

【マリーカ】：ゴーストバスター、びしっ。ころころ。さっきと同じだ。3点。ちくちくっ、ダメだこの剣。というか自分の出目がダメだ。

【プーチン】：そのゴーストが一番ダメージを受けてるっぽいね。

【GM】：というか一番元値が低いからね。

【プーチン】：単体魔法に切り替えたほうが大ダメージがいくからいってみようか。

【GM】：ゴーストさんが悲しがりますよ。

【マリーカ】:ゴーストさんが悲しんでも別にいいよ(笑)。
【プーチン】:「そうか、残念だな」[聖なる光矢] えーとショボいな。〈**数本の光の矢が敵に飛ぶ！8ダメージ**〉
【GM】:「痛いじゃないか」まだ二桁あるぞ、どうにか。
【プーチン】:うん、痛くした。ほお。
【ラズロック】:さあ、どうにか。
【マリーカ】:10点から12点くらいかな。
【ラズロック】:ではそのどうにかのゴーストに対して [爆裂火弾]
【マリーカ】:やばい、殺せ Fire! ポイントに入ったらしい。
【GM】:「そのくらいでは炎は私を傷つけられん」このままいけば、スケルトンBは反撃できる。
【ラズロック】:さてと、思いきや。ダメージ14。
【GM】:残り4点。
【マリーカ】:辛うじて、じゃなかった。でも、残り4点か。
【GM】:ゴーストさんは嫌な奴なんで、やっぱり目の前のマリーカを殴ります。ゴーストはマリーカさんの耳元に近づくと、耳障りな声でけたたましく笑ってくれます。ケタケタケタケタ……。
【マリーカ】:あれー? (笑)
【プーチン】:攻撃、終わった(笑)
【マリーカ】:次のラウンドは「うるさい」って斬りかかろう。
【GM】:えーと、ルクレチアさんに向かってスケルトンBが猛攻。〈**ハンマーの鉄球が当たる！5ダメージ**〉
【ルクレチア】:5点入りましたー。残り16点。
【マリーカ】:やばい、さっきのゴーストのチェーンソーより痛いぞっ(笑)。
【GM】:ゴーストは1レベルパーティのライバル。スケルトン兵は2レベルパーティのライバル。
【マリーカ】:あれー?
【プーチン】:ほー。

▽第3ラウンド

【マリーカ】:「うるさい!」ゴーストに斬りかかろう。「やましいわ」さっきと出目変わらないなあ。ダメージ2点
【GM】:出目にダメージを与えたのだ。
【マリーカ】:さっきから4以下しか出ない(笑)
【ルクレチア】:スケルトンBに対して攻撃だな、今回。
【ラズロック】:魔法どうしようかな?
【ルクレチア】:全体でいいんじゃない。
【プーチン】:でも、ゴースト落ちたらスケルトンも落ちそうだけど。
【ルクレチア】:とりあえず、ゴースト殴れるんなら殴りたいんだけど。
【プーチン】:いやっ。まず、全体魔法。俺たちの前

からルクレチアがいなくなったらスケルトンが後衛に来ちゃうもん。

【ルクレチア】:じゃ、先に全体魔法やっちゃってよ。
【マリーカ】:ゴースト、全体魔法でぼっくりいっちゃいそうだし。
【GM】:ゴーストは残り2点なので+2にパワーアップだっ。
【マリーカ】:あれ、ゴーストが火事場モードだ。
【プーチン】:ということはあれ、残り4になった? [神の怒り] で〈**パラパラと雷が降ってくる！敵全てに4ダメージ!**〉
【GM】:HPはそのままだったんで、-2になりました。
【マリーカ】:成仏した。で、スケルトンたちは?
【GM】:ゴーストは成仏します。「ピエロ野郎のせいでー」と倒れていきます。
スケルトンは元気です。
【ラズロック】:残り9だからなあ。
【ルクレチア】:まあ、殴るよね。Bに、10くうまい具合に攻撃が相手の注意を逸らしたぞ。ラッキー、相手は次のラウンドに攻撃出来ないぜ!〉このままだとA B両方からくる?
【マリーカ】:このラウンドは攻撃できるんだな、って。
【ラズロック】:回復しようかなあ。
【ルクレチア】:そうか、盗賊は一人で敵を食い止める役なんだな。
【マリーカ】:それだから結構冒険者らしい、宝箱開けなどのときにGMがボーナスをつけられるというか。
【ルクレチア】:今回はゴーストを食い止めるべきだったのかもなあ。
【マリーカ】:でも調べちゃったのこっちだし。仕方ない。剣で茂みをがさこそ漁るというファイター一式探知だったので。
【ラズロック】:[生命再生] で回復してみましよう。初回復。〈**痛みとともに傷も消えていく。HP 20回復**〉全快。
【ルクレチア】:すげー、でも〈痛みとともに〉ということは痛いのか。
【ラズロック】:ということですね。ま、無理矢理傷口を塞いでいくわけで。
【マリーカ】:最悪なのは痛みだけ回復ですね。
【GM】:さてと、スケルトンはルクレチアさんに攻撃。ころころ、6ダメージ。
【ルクレチア】:痛い〜
【GM】:もう一発いくよ〜。〈**スケルトンは外れた骨を拾い集めて再び身体に**〉カチカチ〈**嵌める。スケルトンのHPが5回復**〉。
【マリーカ】:いいなあいつ。自己修復持ってるんだ。

ここでちょっとミスジャッジ。

スケルトンは全体魔法でダメージを受けているので、反撃なしが正しいです。

▽第4ラウンド

【GM】：くっ、1回しか殴れなかったか。では、ラズロック陣営。

【マリーカ】：ぶん、B。

【ルクレチア】：Bは今回反撃できないやつですね。

【マリーカ】：ごめん、じゃ、Aに攻撃します。おー、4点だ。だんだん出目がよくなってくる。

【GM】：あと48点。

【マリーカ】：えっ!? 結構あるな。

【ルクレチア】：でもなあ。ダメージ入ってるのもBなんだよなあ。

【GM】：……でもまあ、PLが猛者だから大丈夫だろう、うん。

【マリーカ】：PLが!?

【プーチン】：PLが猛者(笑)

【ルクレチア】：いや、Bに攻撃だ。

【GM】：あっ、3レベル向けのバランスから2レベル向けのバランスに調整し忘れたからなあ。

【マリーカ】：おっと、衝撃の告白。このゲームはレベルが2と3だとHPが1.5倍違うんだぞ。

【ルクレチア】：〈そりゃ、3ダメージだ。どうだい? なかなかの腕前だろ?〉

【GM】：AじゃなくてB? 残り51点。

【マリーカ】：AもBも50点くらいある。やばい、パーティの合計HPが2体の合計と同じくらいだ。

【プーチン】：なんか、これダッシュでD3にいけねえのかな

【ルクレチア】：逃げる?

【GM】：まあ、前衛2人が戦ってるから後衛2人は逃げるのが可能ですね。

【プーチン】：前衛は?

【GM】：一人殿で残れば逃げられます。

【プーチン】：全員が前衛で逃げるといった場合は?

【GM】：敵がそれぞれ1回ずつ殴れば逃げられます。

【マリーカ】：殴られるだけなら逃げてもいいかな。

【ルクレチア】：だねえ。

【マリーカ】：事情を訊くにもゴーストは成仏しちゃったし。

【プーチン】：今いるのは喋られないしなあ(スケルトン)。

【マリーカ】：殿やるならやるでHPダメージ喰らいますが。

【GM】：茂みの奥のほうにですね、

【マリーカ】：宝箱が、とかいわれると「あー、ほしい」とか。

【プーチン】：命あっての物種だと逃げるよ。

【マリーカ】：ピエロが踊ってたりすると行きたがるけど。ここにいとすると何やってんだよ、ピエロ。

【GM】：こんな感じの杖の先っちょが見えますね。(アイテムイラストの先端部だけ見せてる)

一同：あー

【マリーカ】：それはむしろ、そっち(魔法使い)に関係するものだ。

【ラズロック】：つまりリーダーのやる気を出すための……、復権★

【マリーカ】：「おい、お前、このリーダー様の専用武器を取るのが嫌だとぬかすのか」(笑)

【プーチン】：一端引いて、回復してまた来ればいいんだよ。回復は分のいい賭けだど。

【GM】：突然スケルトンたちのHPがぐーっと下がってきた。

一同：あれー?

【マリーカ】：GMが早く倒せよ、って言ってる(笑)

【GM】：たぶん、ゴーストからの魔力供給が絶たれたためだろう。

【マリーカ】：では、どうしましょう? このラウンド、あと、リーダーが動いてない。

【GM】：忘れていたバランス修正を入れてみたなんて言わないんだからね。

一同：笑

【ラズロック】：Aのほうが若干傷ついてるんですね。
[爆裂火弾]

【GM】：Aは残り28点。

【マリーカ】：いきなり20点削られた!?

【プーチン】：でも、レベルが違うと与えるダメージもかなり違うからね。実は我々のHPも1.5倍違う?

【ラズロック】：12ダメージ。

【GM】：そんなにダメージくるなら減らさなくてもよかったかなー。

【マリーカ】：いやいや、ぶれすぎぶれすぎ。

【GM】：私、菅さんのぶれ方を見習ってまして(笑)。

【マリーカ・プーチン】：菅さんを見習っちゃだめー。

【GM】：残り16点です。

【プーチン】：ちなみに、俺はHP10です。だから下がって、一端みんな下がって、で、追いかけてきたら仕方ねえ。追いかけてこないんだったら、回復してもう一回行ったほうが安全。

【マリーカ】：とりあえず、このラウンドは動かしちゃいましょう。次のラウンドの宣言でやることなんで。

【GM】：えーと、Bがこのラウンド動けないんだっただけな。Aだけー。なんか魔法が飛んできたような気がするのはいのせいで? じゃ、ラズロックさんに虚ろな視線を向けて終わり。

Bは動けない。

▽第5ラウンド

【マリーカ】：SFCのFFでいうところのRボタンを押しますね。

【GM】：スケルトンはルクレチアさんのほうを見つめてる。

【ルクレチア】：じゃ、逃げます。

【GM】：では、前衛のお二人に1回ずつ殴って差し上げましょう。

【マリーカ】：そこに立ちふさがってみた。

【GM】：<鉄球が襲う！6ダメージ>

【マリーカ】：はい。

【GM】：ルクレチアには「逃がさんぞ～、わしの嫁になるんじゃ～」<鉄球が直撃する！7ダメージ>

【ルクレチア】：はい、残り3。

【マリーカ】：やばいやばい。結構危なかった。

【GM】：では殿（しんがり）が時間を稼いでくれたおかげで、どうにか逃げ出すことができました。

●再び分かれ道

【GM】：D3へ到着。

【プーチン】：追ってはこない？

【GM】：追っては来ません。

【プーチン】：まず……

【GM】：相手がいなくなると、スケルトンは骨に戻ってバラバラになっていきます。

【プーチン】：また行こうとするど

【マリーカ】：骨がカタカタと……

【GM】：バラバラのままですよ。ゴーストなどの魔力源がないから。

【マリーカ】：とりあえず回復作業を繰り返す。

【プーチン】：若干、魔法使いより僧侶のほうが回復効率いいねえ。

僧侶プーチン、魔法使いラズロックを中心に回復魔法をとばしあい、最後に自己回復のできる魔法使いが自分をしっかり治す。そのあいだにGMはケーキ、コーヒーのお代わりを発注。

【マリーカ】：じゃ、回復終わったし、骨を見に行きますか。

【GM】：もうすっかり骨のままですね。

【マリーカ】：奥の杖は？ まだ見えてるんだ。杖、欲しい？

【ラズロック】：欲しいですね。

【マリーカ】：じゃ、行く。

【ルクレチア】：ちょっと藪を搜索して杖のところまで行ってみます。

【ラズロック】：骨は？

【GM】：特に動きはございません。

【ラズロック】：腰骨を砕いておく。

【GM】：さて、藪漁りはサイコロ1個振ってください。

【ルクレチア】：1。

【GM】：薬草が1組見つかります。あと、杖が一本見つかります。これですね（とデータの載ったペーパーを渡す）。

【プーチン】：「愚者の杖」

【ルクレチア】：愚者のほうか。

【GM】：専用マトリクスもプレゼント。

【ラズロック】：ピンゾロ振ると杖が爆発する……。これ、杖も、愚者の杖もなくなる？

【GM】：なくなるって書いてなければなくなるらない。

【プーチン】：書いてある、<杖自体も失われてしまう>

【ラズロック】：あっ、ほんとだ。

【マリーカ】：びっくりした、本人が爆発するわけじゃないんだ。

【ルクレチア】：本人がリア充になって爆発すると。

【ラズロック】：これ、使えねえ……。

【ルクレチア】：しかし呪いのアイテムなので使わざるを得ない。

【GM】：あれ？ そんなこと書いてあった？

【ラズロック】：ないですが、これほぼ全部マイナスですよ。ほぼじゃない、全部マイナス。

【ルクレチア】：そう。

【GM】：んー、ひでえなあ。

【ルクレチア】：剣とは違うんだよ。「裏切りの剣」とは（基本セット所収のキャンペーンをやったときに裏切りの剣を必死に使い続け、呪いを解いて勇者の剣に変えた経験を持つPL）。

【GM】：こんな感じで行き止まりでした。

【ラズロック】：HPの高い仲間に火の玉5ダメージとか。

●小道

【GM】：ではD4へ行きます。道が左から右につながってます～♪ ほかにめぼしいものは特になし。鳥さんなどがピーチクパーチク、君たちの頭の上のほうで鳴き騒いでるくらい。

【マリーカ】：その鳥がガルーダじゃなければいいです。

【プーチン】：(笑)

【マリーカ】：右側行ってみよう～

【ラズロック】：右翼にですか(笑)

●T字路

【GM】：D5。奥から水の音、手前には洞窟がごさいます。右壁部分が茂みになっています。そんな感じのT字路ですな。

【ルクレチア】：洞窟に入るか奥に行くか。
【マリーカ】：洞窟？ ちょっと見て見ます？
【プーチン】：ちょっと見たあとに君たちは死んだ。
【マリーカ】：14番へ行ってくれ、とか。古いつてば。
【GM】：コカトリスがいた。
【ルクレチア】：あー、よくあったね。って、よくあってたまるか。
【GM】：「T & T」じゃないからねえ。
【ルクレチア】：やっぱり前触れが欲しいよね、石像があるとか。
【マリーカ】：前触れなしでコカトリスがいたら、困ったGMですね。そういえば、石像あったよ。ってあとから言われてふざけんな（笑）。
【プーチン】：君たちが来たのがはじめてだから、石像ないんだわ。
【ルクレチア】：生まれたときからコカトリスなんだよ。
【GM】：で、結局？
【マリーカ】：洞窟見てみます？ 行くだけ行ってみたいと思ってるんですが。
【ルクレチア】：たしか、リーダー委任状持ってるよね？
【ラズロック】：あーそうか（笑）。
【GM】：委任状出しちゃったからなあ。
【マリーカ】：じゃ、北へ向かう。奥に。どんどん。C 5へ
【ラズロック】：とれた杖が「愚者の杖」という愚者の杖だったので……。
【マリーカ】：はいはい、下がってください。
【ルクレチア】：このくずがあっ！？ って。
【ラズロック】：おまえらの武器、全部鉛に変えてやるるか？
【マリーカ】：鉛？ 放射線には強いぞ。
【ラズロック】：鉛になった全員ダイス-2ですよ。
【マリーカ】：C 5に向かっていこうかなど。

●沼

【GM】：C 5です。左壁、真ん中、右壁と沼が広がっています。左から川が流れ込んでます。深くはないけど濡れた土砂の中を通るのは大変じゃなあ。
【ラズロック】：左かどこか通路になってる？
【GM】：うんにゃ、なってません。道は沼の向こうで奥につながっていますね。
【ルクレチア】：D 5手前の洞窟はまだスルーなんだ。
【GM】：沼地は 10 m幅くらいですね。
【マリーカ】：つまり渡るのは大変だ、ということですね。
【ルクレチア】：不渡りとかいうな、おそろしい。
【プーチン】：というか、沼を突っくための愚者の杖なんじゃねえ？

【ラズロック】：埋めてみようか？
【GM】：膝くらいの深さですね
【ルクレチア】：誰が渡るかというと……盗賊が渡る？ なんか策はあったっけなあ？
【マリーカ】：沈むより早く渡るのですね。
【ルクレチア】：川でしょ、幅 2 m？
【GM】：幅 10 mですよ。
【マリーカ】：結構オリンピッククラスですよな。
【プーチン】：オリンピッククラスっていっても、あいつら何も重いものつけてないからな。
【ルクレチア】：しかも助走すごいし。
【ラズロック】：うーん。
【ルクレチア】：ロープ握ってもらって駆け抜けるかな。
【ラズロック】：それが一番よさそうですね
【マリーカ】：ロープが地面に付かないように……
【ルクレチア】：20 mロープの端っこを持ってもらって走り出します。
【マリーカ】：ロープが切れただと、なんてこった（嘘）。湖面を走るトカゲのように走るんですね。
【GM】：では、沼地の真ん中辺りで、水面がぐによーっと盛り上がります。
【マリーカ】：ナマズか？ ん？ なんだ？
【GM】：不定形生命体が出迎えてくれます。サイコロ 2 個振ってください。
【マリーカ】：11。
【GM】：ぼてっ、と君の体へのしかかり 3 ダメージ
【ルクレチア】：戻りますー。さ、全体攻撃よろしく。
【ラズロック】：たぶん、マリーカがぐいっと引っ張って。
【GM】：のしかかったまま、引っ張られたので、ス



ライムも一緒に付いてきます。

【マリーカ】：沼の中で戦うのは嫌だ。

【GM】：ちなみにスライムは1レベルパーティの脅威にもならないくらい。

【ルクレチア】：全体攻撃よろしく。11体もいるらしいから。

【プーチン】：スライムの戦闘マトリクス表で11を振った、だけ。

【ラズロック】：で、のしかかりで3ダメージ

【ルクレチア】：だったらもう。戻らずその場で攻撃するよ。

【マリーカ】：でも、悪い修正出るかもしれませんし。

【GM】：そんなに怖がらなくても。ただサイコロを1個減らすだけだよ。

【マリーカ】：それ、結構痛い。-3.5くらい。

【ルクレチア】：じゃ、陸上のところに戻ります。でもって、運んできてしまったスライムに「おっととと……と、転びそうなふりをして、油断した相手にフェイント攻撃を仕掛けてやるぜ！間抜けめ、次のラウンドにはダイス+1で攻撃してやるからな」でも、今回ダメージなし。

【ラズロック】：次のラウンドで生きてるかどうかという問題が。

【マリーカ】：〈ヒュウと風を切る音。剣は相手の肉を切り裂いた。7ダメージ！〉

【GM】：あと3点もあるぞ

【マリーカ】：ふつうに殴ればいいんじゃない

【プーチン】：5ダメージです。

【GM】：スライムさんはべちよべちよって感じて地面に吸い込まれていきました。

【ルクレチア】：じゃ、あらためてかけます。

【プーチン】：スライム2匹目？

【GM】：じゃ、1ころ振って1が出なかったらね。……出なかった。

では、肉体行動で目標6でどうぞ。っと、肉体はないから汎用行動ですね

【ルクレチア】：ころ～、やったぞ成功だ。

【GM】：かけぬけられた。

【マリーカ】：かけぬけるのみ、とガトーみたいだ。

【GM】：では、B5に入れますね。

【プーチン】：そして一人でぼこられると。

【マリーカ】：では、先程ルクレチアに持っていったもらったロープを辿って駆け抜けます。

【GM】：では、どうにかみんな沼地を渡ることができました。

●賢者の家

【GM】：B5は行き止まりです。ぼっちい掘っ立て小屋が建ってますね。汚い。薄汚れた爺さんが薪を割ってる。

【ルクレチア】：「こんにちは、さっきのスライムはあなたのものですか？」にここ。

【GM】：「なんのこっちゃ」

【ルクレチア】：「川を渡るときにスライムに襲われたのですよ」

【プーチン】：そんなことより目的を告げる。

【マリーカ】：「あなたはいったい？ ジョセフさんですか？」

【GM】：「そういう名前もあったのう」

【マリーカ】：ジョセフさん二人目なんですけど、まあいいや。「入口にジョセフさんがいたんですけど、違う？」

【GM】：「これだから田舎者は困る」

【マリーカ】：それは否定しない。〈世間知らず〉だし。じゃ、用件を告げる。

【GM】：「そいつは大変だなあ。がんばれよ」

【ルクレチア】：「そうじゃねえだろ！」拳を鳴らすんですけど。

【ラズロック】：偽ジョセフ（仮）から貰った樽をあげる。

【GM】：じいさんはですな、薪を一本とるとその表面の字が書けそうなスペースに文字をぐにやぐにやと書き込んでいく。

「あの漬垂れ小僧だったガイめが、領主をよくやってるようじゃな」昔話を語りながら「このメモ通り野草を煎ずれば疫病を治すことができるじゃろう」

【プーチン】：「ちなみに入口にあなたの名を騙る不屈き者がこんなものを」どん。

【GM】：「ほお、これは」と樽を掴むと、栓を抜き臭いを嗅いだりしてます。

【マリーカ】：じたばたしたりしてる？

【GM】：「これはまあ、薬じゃな。一粒二粒飲んだくらいならば体調に問題はないが、10粒くらい飲むとゾンビ化し始める」

【マリーカ】：結構劇毒っぽい。

【GM】：「とりあえず疫病の効果を無視して行動可能になる一時的な効果はある」

【マリーカ】：「やったぞ、薬だ」って持って帰ってたら大惨事？

【ルクレチア】：でも、これくらいしかないから……、だいたい300粒くらいしかないっしょ？

【GM】：まあ、小樽とはいえ一樽だからその2倍くらいはあるね。

【ルクレチア】：600人いる、城に？



【プーチン】：城ならいるんじゃないね？

【ルクレチア】：だよ。一人一粒配ったところで……ねえ。

【マリーカ】：実は一粒食べた奴は「次よこせ」と10粒くらい食べたくなる薬物がいてると（笑）

【GM】：「ま、所詮はピエロのやることだ」

【マリーカ】：「さっきもピエロってきいたんだけど、ピエロって何？」

【GM】：「たしかこのエリアの入口辺りに道化師が住み着いていたの。わしを監視するために」

【プーチン】：デーモン？

【GM】：「うむ、デーモン族の道化師じゃ」

【マリーカ】：「じゃ、そいつの罠かしら」

【GM】：ここでもっと近づくと手招きされます。ちょうど水瓶の側に案内されます。爺さんは鼻糞をほじりだし、水瓶の水面にぽーんと放り込みます。水面に何やら映像が浮かび出します。

【ラズロック】：ほわ〜ん

【GM】：そこには立派な城が映りまして、その手前にドラゴン族とデーモン族の軍勢が対峙してる感じ。その間に人間が50人、寂しそうというか震えてる感じで立ってます。城に異変があったことを察して、ドラゴン族、デーモン族が出征してきた感じ。お互い牽制しあってるおかげで今のところ、人間族が無事なようです。

【マリーカ】：人間潰したいんだけど、お前ら邪魔なんだよお互いについてるんだね。

【プーチン】：「お前らやれよ、たかだか人間50人だ

ろ」「そっちこそやれよ」

【マリーカ】：「ちょっとでも疲弊したところを俺たちが突くからさ」互いに（笑）

【ルクレチア】：むしろ「あの城は俺たちのものだ」「いや、俺たちのものだ」って感じじゃ？

【GM】：「一晩で城までたどり着けるホースゴーレムをやるからこれに乗ってしっかり頼むぞ」

【プーチン】：こうやって「お互い疲弊するのやじゃん」「人間たち、お前たち自決しろ」（笑）人間たちは「えー」

【マリーカ】：「冗談じゃないよ」

【GM】：さてはて、「杖を見せてみよ」とまた鼻糞ほじってます。杖を見せますか？

【ラズロック】：真・愚者の杖？

【GM】：ジョセフは杖に鼻糞をつけた後、全身からガスを出すような感じで踏んばります。

【ルクレチア】：ぶーん

【GM】：お尻からガスとともに魔力が放出されて杖の呪いが解けます。

【マリーカ】：杖の姿が？

【プーチン】：解けた？

【GM】：杖が進化した

【プーチン】：12を振っても仲間にダメージが！

【GM】：参照するデータがこちらの「賢者の杖」に変更になります。

【ラズロック】：すげっ、杖から叡智の光が放射され、モンスターを知性化する？！

【GM】：「といったところで、あとはよろしくなー」

【ルクレチア】：あれ？ ウーパールーパーって最初から知性化してるじゃん

【ラズロック】：さっきのスライムとかが知性を持つんですよ

【GM】：「わしは暖炉にくべる薪の準備で忙しいのじゃ。あとはよろしくな」といって、また薪割りに戻ります。

【ルクレチア】：うーん、洞窟どうしよう？

【GM】：「あー、あすこは乱暴な熊が眠っておる。蜂蜜が欲しいのでなければ別に近づく必要もあるまい」

【マリーカ】：蜂蜜？

【ルクレチア】：蜂蜜って回復アイテム？

【プーチン】：回復まではしない。命懸けてまでとりに行くものでもない。

【マリーカ】：ではとっとと帰りましょう。この先、思いっきり剣が振れそうだ（笑）

【ルクレチア】：そうそう、結局この隠者を名乗ってる偽物は何だったの？

【プーチン】：ピエロ。

【GM】：3レベルデーモンの道化師さんです

【マリーカ】：変装能力を持ってるとかそういうことですか。

【GM】：赤いビー玉で森じゅうの偵察をしながら迷い込んでくる旅人を騙して楽しんでた。

【マリーカ】：おいたが過ぎますね。

【ルクレチア】：で、ヴェルン卿は？

【GM】：たまたまここに迷い込んで知恵比べをすることになったと。

【マリーカ】：ピエロと知恵比べ。じゃ、行きますか。ゴーストに乗って。

【プーチン】：ゴーレム。

【マリーカ】：ゴーストに乗ってじゃ、怖いか（笑）

●待ち伏せ

【GM】：では森を出ようという辺りで、大砲デーモンと道化師さんとすれ違えます。馬が早すぎてあつという間に脇をすり抜けられます。「憶えてやがれ！」

【ルクレチア】：「ここは通さん」

【マリーカ】：といったときにはもう通り過ぎていき遙か彼方。「なんだと！？」

【GM】：そして後ろで「今度決着をつけてやる」

【ルクレチア】：そのさらに後ろで「我が輩の勝ちだ。わはははは」

【GM】：「計算通り池の水をすべて抜いた。池の主もこの通り！」銀の樽の中に水が全部吸い込まれたようです。

【ルクレチア】：そういえばゾンビ薬はどうした？

【GM】：置いてきた、持ってきた、どっちでもいいよ。

【マリーカ】：置いてきたほうがいいんじゃないかな。なんか手足生えてたし。

【ラズロック】：てきとうに処分してください

【GM】：「邪魔じゃのう、そこの沼に捨ててしまえ」

一同：えー。

【プーチン】：じゃ、俺が持ってく

【GM】：というところで、伝承2は終了でございます。お疲れさまでした。

一同：お疲れさまでした。

【GM】：次の伝承3は「突破」というタイトルでございます。千の兵を乗り越えて薬を届けるという素敵なタイトルです。

【プーチン】：「はいよ、ちょっとごめんよ」

【マリーカ】：あっ、あっという間に突破しちゃった（笑）

【GM】：レベルが1上昇します。性格変える？

【ラズロック】：〈ギャンブル好き〉が機能してないん

だよなあ。つと、「賢者の杖」は味方向けの効果、敵向け効果が入り乱れてますけど、対象は効果が決まった後、宣言すればいいですか？

【GM】：武器戦闘の扱いですので、武器同様に振るう前に敵を指定してください。味方と出た場合は、味方全員に発動します。

【ルクレチア】：後ろで振るイメージじゃないのかなー。後衛で振っても遜色ないよ。最終的にはGM判断だけど。

【GM】：まっ、よきにはからえ。

【ルクレチア】：あっ、逃げた（笑）。

【GM】：まっ、前衛に出て振ってくださいな。

【ラズロック】：前衛で出ても十分強いよ。ちなみに後衛で敵に撃たないけれど、味方向け効果発動狙いで振るってできないかなと。

【GM】：今回はなしということで。

さてはて、城まで辿り着く間にデーモン族の襲撃をいくつか退けた君たちはレベル4にまで成長した。

一同：笑

【GM】：いやーすごい戦いだっつ。語りたけれど、語りきれない（笑）

【マリーカ】：俺の活躍が一っつ。

【ルクレチア】：性格2回変えるか。

【ラズロック】：〈ギャンブル好き〉がなあ。ギャンブル要素のイベントが出てこないからなあ。むしろ、杖攻撃がギャンブルか。

【ルクレチア】：〈思慮深い〉が〈やさしい〉に変わりました。で〈ギャンブル好き〉で〈乱暴〉ですな。

【プーチン】：俺は〈意地汚い〉ばかりの気がするなー。

【マリーカ】：だめだ、〈熱血〉を外そうと思って振つたらまた〈熱血〉だ（笑）。

【プーチン】：〈思慮深い〉が〈頼りにされやすい〉に。これで、〈意地汚〉くて〈一匹狼〉だけど〈頼りにされやすい〉に。

【ルクレチア】：さらにLV4への成長時に〈やさしい〉が〈無口〉に。

【ラズロック】：〈ギャンブル好き〉が〈臆病〉になりました。

■ 伝承3：突破

【GM】：この会場撤収 15 分前の 18:45 までに城へ辿り着かないと城は陥落します。

【ルクレチア】：実時間制限。

【マリーカ】：あと 1 時間。

【GM】：さて、この最終シナリオはマップを各自で書きません。こちらに準備してあります。

【マリーカ】：おっ、城のマップ。

【GM】：スタート地点ここ F 2 へ、がんばって、この城 A 4 まで辿り着け。

【マリーカ】：辿り着けば我らは官軍！

【GM】：じゃ、辿り着けなければ賊軍だ。

【プーチン】：その前に城が落ちるから（笑）

【GM】：この旗がそれぞれの本陣 B 3 と B 5 です。ドラゴン族とデーモン族の軍勢がそれぞれ総計 500 くらいずついるのかな。で、A 4 の城門前ではガイたちが、葉まだかなーと指をくわえて待っています。

【マリーカ】：俺たちも画面に出せーって感じですね。

【ルクレチア】：がんばってたどりつこうとはしますよ。

【GM】：えーと、このシナリオでは城が陥落する前に、葉を城に運びましょう。F 2 からスタートして A 4 などにたどり着ければクリアになります。基本は A 4。残り 9 時間の間に辿り着かなければなりません。基本的に 1 マス 1 時間進めます。道沿いに行くと 1 時間で 2 マス進めます。途中で敵と出会ったらそこで終わりです。

【プーチン】：終わりって？

【マリーカ】：敵に遭ったぞ、パーティは全滅した

【GM】：移動が終わりですね。この段差を乗り越えると追加で 1 時間かかります。

【マリーカ】：なんだ、基本的に道なりに行くと一番早そうなのか。

【ルクレチア】：さもなくば本陣突破したうえで行くか。

【GM】：かっこいいなー。

【マリーカ】：本陣突破しちゃこのシナリオ的にダメなんじゃ。

「奴が崩れた」って感じで戦いが始まると思うんですよ。「後顧の憂いはなくなった」とか。

【GM】：たしかに敵対勢力が崩れたら襲いかかりますな。

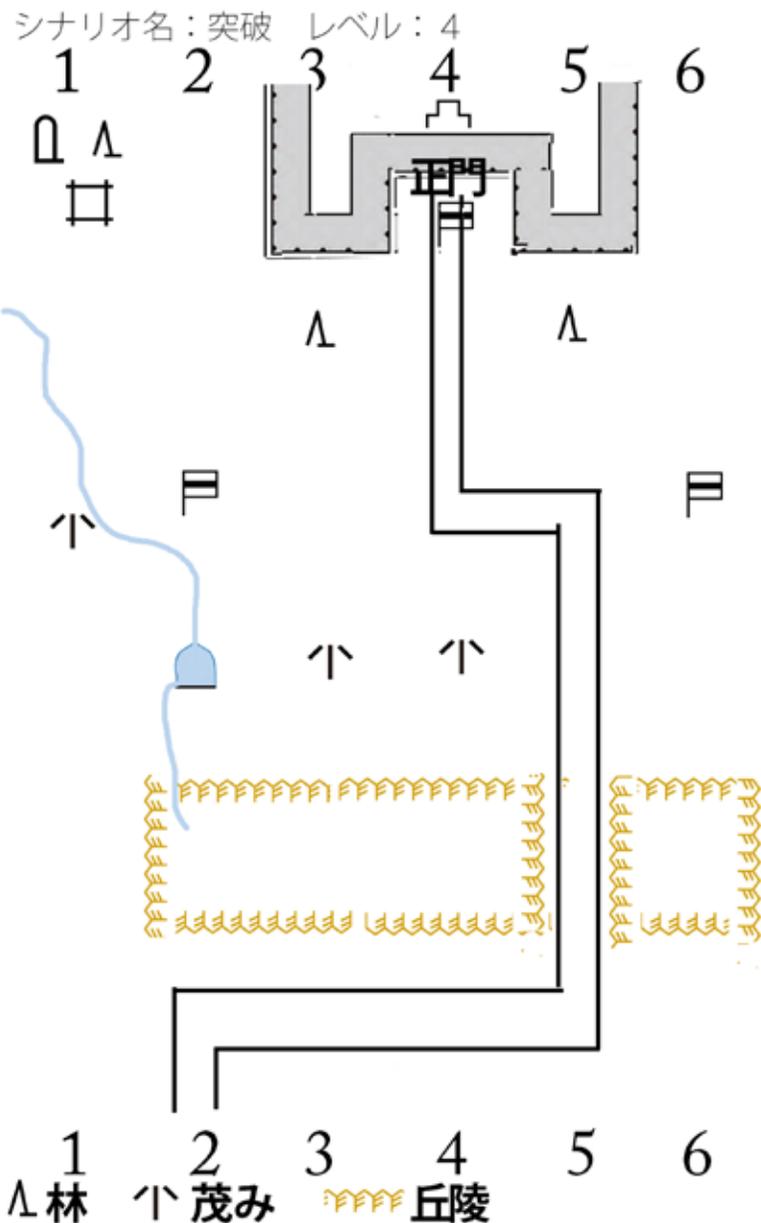
【ルクレチア】：じゃ、両方同時にやればいいんだな。

【ラズロック】：2 人ずつ？

【プーチン】：「おまえ、頭いいよ」

【マリーカ】：だめだー、こりゃ。さっき例に出た「蒼天の拳」の悪役なみに頭悪いよ（笑）。

【GM】：このマップには 500 体のドラゴン族と 500 体のデーモン族がいます。キャンペーンシナリオタイトルが「～千兵を超えて」になってますので、よろしくお願いします。



【マリーカ】: とりあえず、道なりかなあ。時間的にも。
【プーチン】: 道なりでいいんじゃないねえ。
【GM】: ゲーム内で9時間経つか、ゲーム外時間が18:45を経過すると落城します。
【ラズロック】: 前回のシナリオで新しく手に入ったアイテムはありますか？
【GM】: 馬から転げ落ちてった。
【ラズロック】: しょうがない。
【GM】: ここに到着すると同時に馬ゴーレムはぐちゃぐちゃになって大地に戻っていきました。
そうそう、このシナリオではいっぺんに同じ敵が10体以上出てきた場合は、その匹数と同じHPの1つの敵として扱います。退却: マスから逃げ出すことも可能です。ただしーマス戻ることになります。
【ラズロック】: 侵入したマスに戻るといことですね。その戻るのに1時間かかります？
【GM】: 逃げ出すにはかかりません。が、逃げる前の移動処理終了で1時間は経過しています。
らく: 敵の向こう側に退却できればいいのにね。
【マリーカ】: 退却〜っていつ突っ込むんですな(笑)
【ラズロック】: それは敵中突破というんです。
【GM】: 敵中突破の場合は、2回攻撃を食らえばOKです。5ラウンド戦って勝負が付かなければさらに1時間消費します。あと、敵から退却・離脱(敵中突破)した場合は残った敵はユニットとして戦場にコマが置かれ動き出します。たいてい、追いかけてくることになります。
というのが今回のシナリオ限定ルールです。

●斥候ゴースト

【GM】: ではスタート地点のF2。ここにはウーパールーパーかゾンビの部隊がいたはず。
【ラズロック】: 早くももういるんじゃない！
【GM】: まず、北北東の方に黒い煙が見えます。お城のほうでしょうか。そいでもって、ゴーストに率いられたゾンビ兵が10体×5グループがいます。ゴーストさんは「道化師の報告にあったガキどもか……ここに踏み入れたことを報告せねば」とかき消えます。ゾンビ50体が残ります。
【マリーカ】: このまま「報告だ!」「報告だっ」ですめば楽なんだけど。
【プーチン】: 敵中突破時の戦闘マトリクスというのは基本的にどれを何回使うんですか。そのモンスターのを使うんですね。
この場合は、5グループなので5回×2回で10回ですね。みなさんに攻撃が飛んできます。10回も振ればゾンビは1回くらい自滅しそうですね。
【プーチン】: 一回敵中突破してみる？

【ルクレチア】: いや、敵中突破シミュレーションをやってみよう
【マリーカ】: 1回の攻撃で4点くらい飛んでくるとして、
【ラズロック】: もうちょっと多めの6点にしておきましょうか。
【GM】: ゾンビだと3点くらいだよ。
【マリーカ】: まあ、痛い目もあるとして6点の10回で60点。
【ルクレチア】: 一人に集中すると落ちるなあ。
【マリーカ】: 分散すれば大丈夫だけど。
【ルクレチア】: 回復魔法!
【マリーカ】: 今、突破中だってキャンセルされたり。
【GM】: 移動終わった後、回復魔法などができるフリー行動枠を1回差し上げます。
【ルクレチア】: 1回か? 回復魔法の2発(僧侶、魔法使いがそれぞれ)のあと、ポーズかな。
【プーチン】: 道なりに1マスだけ進んで30分。あとの30分を回復に費やせばいいんでねえ?
【ラズロック】: おー。そうすると結構な時間を稼げるなあ。
【マリーカ】: 敵のない場所だったらいいんじゃない。
【GM】: 基本的に敵も道なりに来ることを予想して布陣しています。
【ラズロック】: 遭遇戦もありそうですね。
一同: うーん。
【GM】: そういえば1話目の祭壇で、ドラゴン族デーモン族の争いに巻き込まれた人間が西の林に隠れて井戸水で渴きを癒した——そんな伝承を突然思い出します。
【マリーカ】: 西の林に寄ってる時間はないな。
【ルクレチア】: 西の林、これ? A1? ぎりぎり寄っていくことはできなくもないかな。
【プーチン】: でも、1回でも撤退したら、それは終わるコース。
【GM】: さて、ゾンビさんはどうするかね?
【ルクレチア】: 倒すか突破するかの二択しかないんだな。
【マリーカ】: 撤退すると、入ってきたところであるところのマップ外に放り出される。
【ルクレチア】: あと、9時間という制限はどういう理由で9時間なんでしたっけ?
【GM】: 9時間後に両軍の緊張が高まり、戦いが始まりガイたち人間兵も巻き込まれる恐れがあるから。ジョセフさん予想ですね。
【ルクレチア】: それを伸ばす方法はないと。
【マリーカ】: たぶん和平協定が成立しちゃって、両軍一緒に襲いかかってくるようになっちゃうんですよ。

【GM】：となると、やっぱり2人ずつ敵本陣を襲わないと。

【ラズロック】：もしくは「デーモン族からの親書です」とか。偽宣戦布告とかだまし討ち。

【マリーカ】：デーモン族、ドラゴン族はパンケーキのようにどうやって切り分けるか話し合っていたんですよ、きっと。

【GM】：ゾンビの最大ダメージは4点だ。ゾンビ10体が5グループで、HP10のゾンビ5体扱い。

【ルクレチア】：HP10？ 全体攻撃で落とせない？

【ラズロック】：なんか落としたほうが楽な気がしてきた

【GM】：君たち、4レベルだからねえ、いつの間にか。

【ラズロック】：ふつうに落とせるはず。

【マリーカ】：その杖の振り心地を試してみませんか(笑)

【プーチン】：それ全体いく？

【GM】：出目がよければ。

【ラズロック】：10か11だとすべての敵に10ダメージ。

【ルクレチア】：おっ、ちょうどいい。

【マリーカ】：じゃ、10か11出してください。

【プーチン】：あのね、[汝、敵を愛せ]ってのをかけるとね、俺は今4レベル。1を出しましたら5です。残りHP20以下の敵は去っていく(笑)

【GM】：すごいですねえ(苦笑)。

【ラズロック】：その前に賢者の杖を使ってみて、10か11の敵10点ずつ以外にも2が出れば敵を知性化し去らすことができるそうです(笑)

【マリーカ】：50のゾンビが……。

【プーチン】：ま、俺のやつはHP14消費するんだ。

【ラズロック】：それはもったいないので、1/4で賢者の杖で無力化できます。

【マリーカ】：こまめに回復してやればまあいいんじゃないかと。

【ルクレチア】：まず杖をやる、[汝、敵を愛せ]やるの順でいいかな。

【マリーカ】：いや、杖はいらないんじゃない。[汝、敵を愛せ]は1でもOKですから。

【ルクレチア】：でも、杖がうまくいけば魔法を使う必要がなくなりHP消費がなくなるから。

【プーチン】：でも、俺が魔法を使うと、戦闘中にラズロックの回復1回、そのあとの移動後のフリーアクションで回復魔法1回の2回回復ができるから。

【ルクレチア】：ぞんびはこれでいくと。

【プーチン】：いざとなったら、この薬草を使うなり、なんなりできるから。

【ルクレチア】：ポーション1回分もそっちに渡しておくわ。

【ラズロック】：ちなみに薬草って全部で4つ？

【プーチン】：俺、7個あるよ。

【ルクレチア】：俺が持ってた3個譲った。

【GM】：途中で買い物してもいいよー。

【マリーカ】：金がねーわ！(笑) +1のダガーを売ったところで金はないわ。

【GM】：薬草くらい買うかな、と思っただけよ。

【ルクレチア】：ナイフ+1売って薬草に替える？

【ラズロック】：それが妥当かな……

【ルクレチア】：むしろ、ナイフ+2売るか？ 盗賊はトリッキーな戦いばかりだからダメージソースとして考えにくいし、突き詰めれば+1も売ってしまうか？

【プーチン】：それでポーションが買えるくらいの額になるのならば、ありかもしれない。

【ルクレチア】：+2の半額売りで75金貨になるからそれでポーション買うか。

【プーチン】：そうすると、いざというときに助かる。

【ラズロック】：ポーションってば、全回復しますって書いてあるんですね。

【ルクレチア】：ほかに売れるものないよな……

【ラズロック】：賢者の杖？

【ルクレチア】：それはさすがに非売品なので、シールド+2を売って75金貨を手に入れ、50金貨のポーションを買う。ポーションは私が持って……、あと25金貨で薬草5つ買えるなー。

【ラズロック】：俺、ほとんど持ってない。

【ルクレチア】：じゃ、薬草も買う。ということで買い物終了。

【プーチン】：で、ゾンビ戦。[汝、敵を愛せ]ころころ。残りHPが30以下の敵が去っていく。

【GM】：ゾンビたちは「やっぱり戦いはだめだよー」と去っていく。

【プーチン】：俺が魔法を唱えたラウンドにまず1回ラズロックに回復してもらって、そのあと5ラウンドまでかかってなかったのが2ラウンド目にさらに回復魔法と。

というわけで回復終了。

【マリーカ】：じゃ、進んじゃうよー。移動開始ー。

●卑竜襲来

【GM】：道なりに進むんですね。では、F3を通過中に、その北という上上のマスのE3からワイバーンさんが1回殴って帰っていきます。

一同：わーい、ばーん。

【GM】：反撃しなければ次のマスに移動できます。

【ルクレチア】：じゃ、反撃しねえよ。

【GM】：では、一番HPの高い人にワイバーンの攻

撃が1回いきます。2D6を振ってください。8？

【ラズロック】：300ダメージ

【GM】：PLさんがいうんじゃ仕方ない、300点を採用するか。

【マリーカ】：いえいえ、採用しなくていいから。

【GM】：じゃ、〈鋭い爪が襲う！15ダメージ〉「女の柔肌はうめえぜ」と言い捨てて戻っていきます。

【マリーカ】：「痛っ」

【プーチン】：では、それに対して回復使います。んー、攻撃すると移動できないんですね？

【マリーカ】：ワイバーンの攻撃はイベントなんですよ。

【ラズロック】：反撃しなければ、の反撃がよくわからないなあ。

【GM】：反撃すると敵との遭遇戦に突入ということで、移動が終わるんです。道沿い移動以外だと、遭遇戦に突入しても移動権が余らないので問題にならないのですが、今回は移動権が余るのでこういうまどろっこしい表現になってます。

もしかすと、マリーカさんのいう「イベント」と考えるのが一番楽なのかもしれません。

さて、その回復のフリーアクションの前にF4到着。

●紅鱗三姉妹颯爽登場！

【GM】：こんな感じのヘビ女3人組と、配下のウーパールーパー30体といっしょにいます。

【プーチン】：「お疲れさまー」といって脇を通り抜ける。

【マリーカ】：関羽張りに「押し通す！」っていえばいいんでしょうかね。

【GM】：「麗しの紅鱗三姉妹」が配下を引き連れ立ちふさがります。「ドラゴン族にその名を知られた麗しの紅鱗三姉妹がこっから先には通さないよ」と長女。

【ラズロック】：「どうやったら通れるんですか？」

一同：笑

【GM】：「あたいらを倒すんだね」と次女さん。「あんなたちのことはケロ助から報告は受けている」と長女。

【ルクレチア】：この間に突破できるかな？

【マリーカ】：痛そうだけど。

【プーチン】：また、「立ち去れー」って[汝、敵を愛せ]をやると、この3人は行かないかもしれないけど、周りの率いている奴らは……

【ルクレチア】：コミュニケーション判定で見逃してもらえるように説得します

【マリーカ】：-5とかいわれそうですけどね(笑)

【GM】：あなたがたからの相手へのメリットアピールなどがあれば。

【マリーカ】：「四の五の言わずにどけ」とか？

【ルクレチア】：メリット？「このままじゃ、ウーパールーパー30体全滅するよ」

【GM】：30体になってるよ(笑)。うーん、ルクレチアさんが交渉するのか、じゃ、-3。

【プーチン】：その前にウーパールーパーを散らしてからのほうがいいんじゃない。3人だけになるとまた話が変わるんじゃないかな。

【ルクレチア】：もう一つ。今の反応からすると男が説得したほうがいいかもしれない。

【GM】：なんのことやら～(苦笑)。ちなみに長女の男たちを見る目は尋常じゃない。「あたしもそろそろ子育ての時期だからなあ」とか。

【マリーカ】：会った瞬間に「はん、このヘタレが」とか言ってきたり(笑)

って、戦闘ラウンドに入るなら入っちゃいますが。

【GM】：っとそうだ、あの判定やってない。奇数プーチン、偶数ラズロックでころ、はい、プーチンさんになんだか一目惚れしたようですね、長女さん。「ウホッ、いい男！」って感じで睨みつけてきてます。よだれ垂らしながら。



【プーチン】：睨みつけられてる……（笑）。
【ラズロック】：あからさまに狙われてる（笑）。
【GM】：「あの男なら、いい子供ができそう、じゅるり」

▽第1ラウンド

【GM】：では、P Lアクションからでも、敵アクションからでもいいよ。
【マリーカ】：もちろんP Lアクションからにしますよ（笑）
【プーチン】：ウーパールーパーはどれくらいのHPだ？
【GM】：10体が3グループです。10点が3体扱いですね。
【プーチン】：範囲攻撃魔法だとどれくらいで倒せそう？
【ラズロック】：[火焰砲射]だと6以上ですね。自分の消費が10というのがちょっと痛いな。[閃烈光波]だったら4以上ですね、でも消費が12です。なんだったら、攻撃の後のほうがいいかもしれない。
【プーチン】：まず1ラウンド目はウパさんさようなら。で、一撃三姉妹に与えておく。
【ラズロック】：攻撃の後のほうがいいんじゃない？
【GM】：（ボソッと）三姉妹はまとめて1つの敵扱いです。
【ラズロック】：一撃殴っておいて、それでHPが50以下になれば
【プーチン】：ああ、それで[汝、敵を愛せ]が効くようになるかもしれない、ってことか。
【ルクレチア】：残りHPの話か。
【ラズロック】：それで三姉妹が残ったら、次のラウンド交渉だ。
【GM】：たしかに交渉材料になりますな。
【マリーカ】：話せばわかる。
【ルクレチア】：それ、問答無用っていわない？（笑）
交渉の内容が「見逃してくれ」から「降伏しろ」になるよ。
【マリーカ】：お前たちにチャンスを与えてやろう。
【プーチン】：とりあえず、それ一発やって、それで出た目で考えようか？ 三姉妹は1体扱いだそうなので、先生、どーんとお願ひします。
【ルクレチア】：じゃ、前衛も攻撃しておいたほうがいいよね？
【マリーカ】：少しでもHPを減らしておいたほうがね。
【プーチン】：そうね、ウパさんは
【ルクレチア】：攻撃しなくていいのね。
【マリーカ】：ウパ様♪
【ルクレチア】：攻撃するんなら誰からでも大丈夫よね？ じゃ、やっちゃうよー。+1に変わったんだ

よね、9+1で10くうまい具合に攻撃が相手の注意を逸らしたぞ。相手は次のラウンドに攻撃出来ないぜ！>

実はこの結果は3レベル盗賊向けの戦闘マトリクス表を見えています。つまり、手加減していたようなものです。まあ、4レベルの表でもこの出目はダメージ与えないので、結果には影響はないのですが。

【マリーカ】：10で、10点。<身体に深々と刺さった！>
【GM】：残り70点
【ラズロック】：[雷撃衝波] 2+4で（表を見ると）12点。微妙だなあ。
【GM】：残り58点。三女がかなりふらふらになってきてます。
【プーチン】：そして、[汝、敵を愛せ]ころ。30点以下が去ってく。
【GM】：ウーパールーパーたちは「戦いはやっぱダメウパー」とかいいながら去っていく。
【プーチン】：で、「ちょっと待て、お前ら」という状態ですよ。
【GM】：「所詮は雑兵、我ら三姉妹の引き立て役にすぎんのだ」
【プーチン】：では、交渉しようか。
【マリーカ】：ルクレチアの牽制で攻撃はできなかつたと。
【GM】：それは次のラウンドじゃなかったっけ？
魔法ダメージが一番大きかったので「この瓢箪みたいな魔法を撃ってきたのか」と嘲るようにラズロックさんを見返して終わりです。
【ルクレチア】：しかも次のラウンドは攻撃できない。

▽第2ラウンド

【GM】：じゃ、交渉ですか。何の主張もなければマイナス修正からスタートです。
【プーチン】：（苦笑）長女に向かって、「無益な戦いは止めよう。君たちをこれ以上傷つけたくはない」プーチンは攻撃してないからね（笑）。祈って愛を囁いただけだからね。
【GM】：二女、三女が「甘言にダマされちゃだめだー」と騒いでますが、修正0です。レベルが4入るから……
【プーチン】：<どうも険悪な雰囲気だ。退散した方がいいか>
【ルクレチア】：前に退散しよう！
【マリーカ】：たぶん「この戦いが終わったら結婚しないか」とか言ったんですよ（笑）。
【GM】：「おまえが私の寝床に来るなら考えよう」
【プーチン】：「それ、どこ？」
【GM】：ドラゴン山〜町三丁目2番5号2階だって。

【ルクレチア】：後で行く、とか言っちゃえば。

【マリーカ】：個人情報ゲット！

【ラズロック】：よし、これをあとでネットに流すんだ。

【マリーカ】：交渉は失敗した、斬る。「まかり通る」
8点

【GM】：残り 50 点。てことなんで、三女が倒れた。

【ルクレチア】：5 + 1 で 6……

【マリーカ】：それは戦士のマトリクス表だ～

【ルクレチア】：当たったぞ、1 ダメージだ

今度は 2 レベル盗賊の戦闘マトリクス表を見るようです。もちろん、プレイ中は誰も気づきませんでしたが（GM、本人含め）。

【GM】：はいよ、残り 49 点。

【ラズロック】：魔法どうしようかな。

【マリーカ】：あの杖振ってみるとか。とりあえず、このラウンドは反撃の心配もないし。

【ラズロック】：あっ、そうか。

【ルクレチア】：祈りで追い払うのは 30 点以下だっけ？

【プーチン】：今なら最低 20 点以下。ちょうど、今だとダイス半々の可能性かな。

【ルクレチア】：じゃ、祈りはまだちょっと早いかな。次のラウンドも説得かな。

【マリーカ】：3 人が攻撃した後やるという手もある。

【ルクレチア】：3 人が殴った後説得か、殴った後「汝、敵を愛せ」か。

【ラズロック】：「俺ならばこいつらを止められる」と賢者の杖。〈賢者の石がその力を発揮！目映い光が降り注ぎ、味方の武器を伝説の武器ミスリルに変換する。この戦闘の間、全員ダイス目に +2 する。ただし、戦闘が終了したら武器は全て元に戻る〉

【GM】：彼女らはいらついでいて反撃できない。

▽第 3 ラウンド

【マリーカ】：きらっ。斬りかかって 13 点。

【GM】：残り 36 点

【ルクレチア】：8 + 1 で 9 にミスリル + 2 がついて 1 1 〈おっとっと…と、転びそうなふりをして、油断した相手にフェイント攻撃を仕掛けてやるぜ！間抜けめ、次のラウンドにはダイス + 1 で攻撃してやるからな〉ダメージなし。（ちなみに 2 レベル表）

【プーチン】：残りが 40 以下だから 2 / 3 で追い払えるか……

【GM】：次女ももうフラフラ～

【マリーカ】：ラズロックさんは殴りかかりますか？

反撃は 13 点の私のところにくるので。

【ラズロック】：その 13 点は賢者の杖で出ないので、13 点を超えることはないので反撃の心配はいらなそうなのですが、ただまた 6 ゴロで賢者の石発動みたいなことがおきたら……

【マリーカ】：じゃ、ふつうの杖で殴ってはいかがでしょう？

【ラズロック】：ふつうの杖で、レベルのマトリクス表を見て振ります。5 ダメージですね。

【ルクレチア】：あっ、2 レベルで見てた。ごめん。

【マリーカ】：「次からは本気を見せてやろう」って言ってるね。

【プーチン】：説得するかどうか、うーん。

【GM】：今なら三女が倒れて反対勢力が減っているのるので、+1 の修正で説得できます。

【プーチン】：「お前たち、こんな戦いやめるんだ。こんな無益な戦いをしてどうするんだ？」ころく信用してくれたようだぞ。あまり無理でないことなら、頼みを聞いてくれるに違いない〉

【ラズロック】：「見逃してくれ」程度なら。さすがに「仲間になれ」は無理としても。

【GM】：「この戦いは不利だ。仕方がない寝床で待ってるぞ」と別方面に転進していきます。去り際に「E 5 辺りは要所だから気をつけるんだよ。砲兵などが射撃してくるからね」と。

【ラズロック】：じゃ、しばらく回復してまーす。

【マリーカ】：E 5 は厳しそうなので丘を越えていきます。

●丘

【GM】：E 4。敵がいるぞ。デーモン砲兵が 20 体が 3 グループ。

【ラズロック】：HP 20 が 3 体。

【GM】：こいつらの攻撃は毒が混ざっています。

【ルクレチア】：[汝、敵を愛せ] は……ほんとに 1 で 20 以下なのか。

【GM】：あ……部隊再編したほうがいいのかもかもしれない。

【プーチン】：HP 14 使って、[汝、敵を愛せ] ころころ、無駄に 30 以下を退散。

【ルクレチア】：30 以上の奴はいるか？

【GM】：「おっと、大砲の調子が悪いな」と彼らは戦意を失い西の E 3 に逃げていきます。そして、そっちでワイバーンと戦う羽目に。

【ルクレチア】：「対空砲火！」

【GM】：「俺たちは戦いたくないんだー」「うわー」戦意のないデーモン砲兵はやられる一方。

【プーチン】：「大砲の火薬がしけちまってるぜ」「点検してると後ろを誰が通ってもわからないぜ」「火薬を乾かさないといけねえぜ、忙しくて後ろを見ている暇はないぜ」とみたいな感じで通らせてくれるんじゃないの？

【GM】：それもそれで戦意失ってる姿ですし、そっちにしましょうか。というわけで、通ることができました。

【マリーカ】：というわけで残り5時間。

【GM】：では移動前に短時間ですが、回復魔法を飛ばしたりして、いよいよD4です。

●茂み

【GM】：D4は茂みです。向こうからは見えませんが、隣のマスもよく見えます。東のD5は南の要所E5に攻撃するためたくさんのデーモン砲兵が配置されています。やつらはD4の茂みの中に敵を見つけれないので、こっちには何もしてきません。

あと、残り4時間になったので、……残り時間イベントはあとにまわして、と。

特に何もなさそうなので北に進みますか？

●武芸者

【GM】：C4へ到着。街道に戻りました。リザードマン1体に率いられた、ウーパールーパー20体が5グループがいます。

そこに城のほうから騎兵隊がやってきます。

【マリーカ】：(ぼそ) リザード隊長と高杉晋作

【GM】：ネーラレインさんが指揮してます。「ここは我らネーラレイン隊に任せ、先に行ってください」って、ネーラレインさんが叫んだところにウーパールーパーの槍が脇腹にずぶり。「あっ」と叫びながら落馬していく。

【ルクレチア】：えーと、ウーパールーパーだけでしょ？

【GM】：そこにリザードマンがやってきて背中から斬りつけ、ウーパールーパーさん……じゃなくて、ネーラレインさんをずぶり。ネーラさんは絶命します。

【ルクレチア】：そういうイベントなのね。

【マリーカ】：あっ、死んじゃった

【GM】：彼らの注意は騎兵隊に向かっているのでもノーアクションで脱出することも可能ですし、この部隊に対して何かするのも可能です。

【ルクレチア】：これだけウーパールーパーいたら蹴散らしたいよね？(苦笑)

【マリーカ】：とりあえず、あれをやってもらう？

【ルクレチア】：それで残った騎兵隊でリザードマン1体をどうにか倒してほしいよね。

【GM】：とりあえず、騎兵隊はウーパールーパーやリザードマンと戦ってます。リザードマンは4レベルパーティと互角くらいですね。

【プーチン】：騎兵隊は全滅しそうな勢いだよね。

【ルクレチア】：でも、ウーパールーパーだけでも掃

除しておけばさあ

【マリーカ】：とりあえずウーパールーパーだけでもやっつけてしまえば。HP20扱いだそうですから。

【GM】：ネーラレインさんお亡くなりになったのに。

【マリーカ】：それも鑑みての行動です。このままやり過ぎるものなかなあと。

【プーチン】：[汝、敵を愛せ] てろてろ。残りHPが40以下の敵が去って行きます。

【ルクレチア】：リザードマンはいくつ？

【GM】：100しかないんで。ウーパールーパーさんたちは「人間怖い」「戦いやめよー」といいながら逃げ去っていくよ。騎兵隊もHP20以下の……って騎兵隊は敵じゃないか。「うひゃー、敵が逃げてくぞ。追撃だー」

【ルクレチア】：あっ、行っちゃった。リザードマンをなんとかせいで。まあいいや。

【プーチン】：「彼の死は無駄にはしない」

【GM】：「所詮奴らは雑兵よ」とリザードマンは強がり。

【ラズロック】：じゃ、殴りますか。

【ルクレチア】：その前に、逃がしてくれるんなら逃がしてもらいたい。一人でも逃げて入城したほうが早い。

【GM】：リザードマンは反撃というか敵の行動順で、騎兵隊副隊長の首を飛ばして、次の標的を君たちと見定めます。

【ルクレチア】：そのころにはもう我々はいないんだ。

【GM】：いない、あいよ。

【プーチン】：だって、「無駄にはしない」といってさっさと進む。

【マリーカ】：まさしく、無駄にはしてない。

●副将

【GM】：B4です。城へ真っ直ぐな街道です。

【マリーカ】：入城できるかなー？ 変なイベント起こらなければいいけど。

【ルクレチア】：騎兵隊が通ってたくらいだからここは空いてるでしょ。

【ラズロック】：道は空いてるはず。ただ、上空から来たりしないか不安です。

【マリーカ】：周囲で従軍ラッパが鳴って進撃してきたりと。

【GM】：ドラゴン族副将2人目、リザードマン1体に率いられたヘイタイガエル10体×3グループがいます。ヘイタイガエルの1体は君たちの姿を見ると悲鳴をあげて逃げ出します。

一同：あー。

【ルクレチア】：第一話で出てきたあれじゃないの？

【GM】：そのケロ助さんが逃げていきました。

【ルクレチア】：ちなみに、北のA4はもう味方エリアなの？

【GM】：ですね。

【ルクレチア】：あと、戦闘5ラウンドで1時間でしたね。

【プーチン】：ここ突破すればゴールだから、まずはぴかぴか神の威光を示してからだな。

▽第1ラウンド

【プーチン】：まず[汝、敵を愛せ]ぴかぴか。ころころ。HP 50以下は去っていく。

【GM】：ヘイタイガエルたちは逃げ去っていきました。

【プーチン】：カエルたちが「ひいっ、あいつらはやばいんだ」ほかのカエルが「そうなの、そうなの」と。

【ラズロック】：[傀儡光縄]って、<相手を3ラウンドの間動けなくすることが出来る！>ってあるけど

【ルクレチア・マリーカ】：でたーっ

【ラズロック】：これが出た場合、2回分の攻撃はまったくなしになるの？

【GM】：基本的に攻撃というか行動自体なくなりますが、運が悪いと敵さんはバッドステータス回復判定に成功することがございます。

バッドステータスを被ったキャラクターの行動前に判定し、成功すると1ラウンド分効果が短くなり、もう1回続けて判定という代物です。

パールシードもももにはなかった状態異常についての回復ルールです。

魔法でいじめられがちなGMのストレスを軽減するため、なんとなくつくってみました。詳しくは、本リプレイ姉妹作のシナリオ集を参照ください。

【ラズロック】：ちなみに最低で3ラウンドなんですよ。

【マリーカ】：そういうバッドステータス回復判定がないと、この魔法で詰むんだよね（昨年やったキャンペーンでこの魔法大暴れの経験あり）。

【ルクレチア】：誰か一人が薬を持って入城すればいいのか。この場合、入城するとすれば誰だ？

【GM】：リザードマンさんは「こんな戦場まで若人が来るとはよほどの事情があるに相違ない」

【プーチン】：退散して

【マリーカ】：通してやろう、とか？

【GM】：「一対一で戦うというのならば……、残りは通してやろう」

【ルクレチア】：副将がいうならともかく、リザードマンじゃなあ。

【GM】：このリザードマンは副将の一人。本陣には大将のドラゴンさんが来ております。

【マリーカ】：ドラゴン將軍、リザードマン副將。

【ラズロック】：戦う前に魔法で増強するのはありですか？（笑）

【GM】：「私が正々堂々やる以上、君たちもね、……期待しているよ」

【マリーカ】：空気読めよ、っていつてる。

【プーチン】：あれだよ、「祝福を」っていいながら強化魔法かけるんだよ。

【マリーカ】：「結構、分は悪いけどね。まあ、戦えないこともないけど、きつい」

【ルクレチア】：5ラウンドで1時間でしょ。

【プーチン】：みんなでぼこればいいんじゃない？

【マリーカ】：そうそう

【ルクレチア】：いや、5ターンあれば手分けした人が戻ってくる余裕があるわけだ。

【GM】：それだけあれば、ドラゴン族の友軍、デーモン族も何か動きがあるかもしれませんよ。

【マリーカ】：ふつうにぶっ倒せばいいんじゃないの？

【プーチン】：あとは、そいつ結局1体だし。無視して1回殴られるの覚悟で駆け抜ければいいんじゃない？

【ラズロック】：敵中突破だから2回。

【マリーカ】：その2発で2人に300点、2人に300点全滅。ということはないと思うんだ（笑）。

【プーチン】：だから1ラウンドまずは薬を持ってる俺が駆け抜けるまで食い止めてもらって、次のラウンドみんなが逃げればいいんじゃないかな。

【ルクレチア】：そうだね。

【GM】：えっ（汗）。まあ、目的を考えればそれはそれでありだと思いますが。

【マリーカ】：では剣を抜いて立ちふさがった。

【ルクレチア】：「いや、我々は総力戦で戦う」（笑）

【プーチン】：「お前にかかわってる余裕はない」

【GM】：では、そちらからどうぞ。ちなみに、プーチンさんはヘイタイガエルに[汝、敵を愛せ]を放っているの、1ラウンド目は行動済みですよ。

【ルクレチア】：エンチャントくる？ それとも攻撃魔法撃つ？

【ラズロック】：それこそ、[魔縄拘束]などでバッドステータスを差し上げる

【マリーカ】：あれ、かなりやばい魔法だから。敵が1体だとかなりはまる。去年やったときは、継続的にかけて、ドラゴンが何もできずに死んだ。

【ラズロック】：4レベルなので最低でも2ラウンド縛るんですよ。MAXは5ラウンド。もしくは[傀儡光縄]っていうので、3ラウンド動けなくするか、自分で自分を攻撃させるか、敵の戦闘マトリクス表から好きな効果の一つ選べる

【マリーカ】：まずは[魔縄拘束]でよろしいのでは

ないでしょうか？

【プーチン】：まあ、どっちでも。

【ラズロック】：バッドステータスが回復するまでってどのくらい？

【GM】：D6でレベル以下を出せば成功で、このリザードマンは4レベル相当。なので4/6だから……

【ラズロック】：2/3ですね。

【プーチン】：1回成功で1ラウンド分時間短縮なので、

【マリーカ】：3回連続で成功はそうはないかと。

【ラズロック】：[傀儡光縄] (大山のぶ代調) <敵を操り、次のラウンドは自分で自分を攻撃させることが出来る>

【GM】：よくわからないなあ、というかわかりたくないなあ (苦笑)

【ラズロック】：その代わり消費がでっかいので。

【ルクレチア】：どっかん、<たいしたもんだろ。3ダメージだ>

【GM】：よし、97点まで削ったぞ。

【マリーカ】：たいしたもんだろ、出目が。<よし当たったぞ！5ダメージ>

【GM】：萎縮されてるなあ～

【プーチン】：いえいえ、牽制攻撃ですよ……では、そちら。自沈してください。

【GM】：2D6振っていいよ、というか振ってください。

【ラズロック】：ころころ、6

【GM】：<ナタブレードの攻撃！10ダメージ>「うおっ、面妖な」己に斬りつけたよ。

【プーチン】：たしかに。

▽第2ラウンド

【GM】：では、君たちの番。

【プーチン】：お先に～、と立ち去る。

【GM】：る、ルパン、待てえ～ (笑)

【マリーカ】：ルパソ、ノレパン、ジゲソ

【ルクレチア】：約束通り今回も攻撃。7 <たいしたもんだろ。3ダメージだ>サクッ。

【GM】：残り79

【マリーカ】：ぶんっ。8点。

【ラズロック】：もう1回 [傀儡光縄] 撃っちゃいます。<次のラウンド、敵を完全に操ることが出来る。敵のコンバットマトリクスに書かれた行動の中から、好きな番号を一つ選ぶこと>

【GM】：反撃～、一番大きいダメージのマリーカさんに <アタッキングシャーク斬り！> 15ダメージ

【マリーカ】：いてっ。

▽第3ラウンド

【GM】：次のラウンドです。城に辿り着いた人はさておき。

【ラズロック】：ヒーリングポーションをぐびりと飲みます。

【ルクレチア】：動けないうちに逃げる？

【プーチン】：みんなで逃げて、自分に攻撃させればいい。

【ラズロック】：<完全に操ることが出来る>

【GM】：完全に操ってるあいだに逃げる。魔法使いが視界からいなくなってもいいのかな？ その辺の記述はなかったなあ。いいことにするか。

【ラズロック】：<リザードマンはブツブツ言っている。決め台詞を考えているようだ> にします (笑)。

【プーチン】：(リザードマン)「なんて言って倒せばいいかな……あっ、行っちゃった」

● end: キスカ城

【GM】：6時間で突破されてしまった。ガイさんと50人の兵卒が城門の前に設けた陣に着きました。

【マリーカ】：ばからんばからん (でも自分の足で移動してます)、着いた。

【プーチン】：着いた

【ルクレチア】：着いた

【ラズロック】：ついたー

【プーチン】：一粒飲めば症状緩和、十粒まで飲めばゾンビ化する粒薬。ごそごそ動く薬があります。それはそれとして、ここに特効薬のレシピがあります。

【マリーカ】：十粒で不死族の力を得ることができる……

【GM】：とりあえず、敵が城の前にいる以上、動けるようになってもらうことが大事じゃないか。そんなふうには、彼らは考え始めます。

【マリーカ】：一粒飲んだ後、敵を追い返してからゆっくりレシピでなおすと。

【GM】：ガイさん曰く「中に入ると我々は疫病に感染してしまう可能性が強いので、君たちが中に入って粒薬を配ってくれたまえ。我々が薬をつくる」で、いいのかな？

【マリーカ】：一粒三千日

【プーチン】：いざというときのために、600粒あるから3粒ずつやっても200人。どのくらいの時間有効なのかな。

【GM】：ころころ。とりあえず城には100人の大人がいました。

【プーチン】：100人いるんだったら6粒ずつ配る。6粒なら大丈夫だから。

【GM】：王様も薬を飲んで意識を取り戻したので、王様の意識に対応する城の結界も復活しました。「城の結界が復活した。こりゃあ、もうそう簡単に落とせない。引き上げるぞー」「もうやべえ、逃げるべえ」てな勢いで両軍ともに帰っていきます。お互いに牽制し合いながら。

ガイさんは「よくやった」、王様は「すごい、君たちよくやった」

【マリーカ】：次のレベルまではあと～点じゃ（笑）

【GM】：「おまえたちはもう強すぎる」（笑）「よくがんばってくれた、感動した」と肩を叩いてくれる。

【プーチン】：そこでそっと書簡を出して、報酬渡せって書いてある。

【GM】：「報酬か……」王様はハグしてくれた。

【プーチン】：「で？」

【GM】：側近が「君は王が抱擁してくれたのは不満かね」

【プーチン】：「いえ、光栄です。でも……」

【GM】：君たちは名誉王族に任命される。

【プーチン】：「それはどのようなものでしょうか？」

【GM】：一生に10金貨の年金がもらえるそうです。

【ルクレチア】：一生に？

【ラズロック】：1回だけ？

【GM】：もちろん。好きなときに1回だけ10金貨がもらえるそうです。

【マリーカ】：「それもいいけど、それよりもさ、《この者は王国屈指の剣士である》みたいなものがもらえないかな」

【GM】：では、そういった内容の書状を書いてくれます。

他に一つずつ、500枚の銀貨の入った袋が渡されます。それぞれ、あなたがたの似姿が打たれています。

王様曰く「私は銀色が好きでね」

【マリーカ】：「金貨の流通を認めてないのだ」

【GM】：ということはありませんが、下賜するのは銀貨が多いようです。

マリーカさんには「この国の剣士の強いほうである」という書状が下されます。

【マリーカ】：微妙なテキストだけど、兄貴に見せようっと。

【ルクレチア】：盗賊ギルドをつくらせてください（笑）。

【GM】：それは国の公認とは関係ないからなあ。

【ルクレチア】：公認盗賊ギルド！

【プーチン】：だからあの、密偵団作って頭角になりますよと

【ルクレチア】：密偵団！

【GM】：諜報機関が設立されます。

【マリーカ】：これで隠密高機動警察が設立されました。

【ルクレチア】：そうそう。

【ラズロック】：国で好きなだけ実験させてください。

一同：笑

【GM】：魔術師学院研究施設みたいなのを造っていいよ、という許可がもらえました。

【ラズロック】：「つくっていいよ」？ 資金がないんですよ。実験結果は国に献上するので、その資金を援助してくれませんか。

【GM】：諜報機関の一機関として設けられました。

【ルクレチア】：同僚だけど部下になった（笑）。

【GM】：で、立派な祝杯が渡されます。

【プーチン】：あれです。「私はそんな大それたものは要りません。ただただそれなりの地位がいただければ、と」（笑）

【ラズロック】：ひたすら金？

【GM】：「そういえば城の前でヘビ女が一人待ってたぞ」なんて話も。

一同：笑

【GM】：「押しかけ女房がいるとは大したもんだ」王様褒めてくださいます。

【プーチン】：それはそれとして、「強くなったし、これだけのことしたし、それなりの地位をやらないと国民に示しが付かないのではないかと」

【マリーカ】：あとはネーラレインの死体を早く回収に行きたいんですけど。討ち死に～とさっき死んじゃったので。

【GM】：では、その死体の口に薬が10粒放り込まれ……

一同：え??

【マリーカ】：一粒で300m走れます。

【ルクレチア】：十粒でゾンビ化できます。

【プーチン】：それは僧侶としては許しちゃいけないんじゃないかなー。

【GM】：とりあえず、ガイさんの側近としてネーラレインの後継者として任命されます。

【ルクレチア】：誰が？

【GM】：そのプーチンさんが。枢機卿みたいな地位もてきとーに与えられる。

【プーチン】：だから村に行って、「よくぞ帰ってきた、ラスト・プーチンよ」って言われたら、「俺、あんたより今偉くなったから」

一同：笑

【GM】：「故ネーラレインの後を継ぎ、集落長として、そしてガイの側近としてホープの町のナンバー2としてがんばってくれたまえ」ガイさんは執務がめんどくさいのと、しょっちゅう武者修行に出るので、

実質ナンバー1になります。

【プーチン】：で、ラミアはいつまでいるの？

【GM】：あなたが尾行を撒くまでかな。あなたは有名になったので、簡単に場所がばれるようになり、撒いたラミアにいくどとなく襲撃を受けるようになります。

【プーチン】：そんなふうによられるとめんどくさいので、だったら人間族とドラゴン族の和平の場というか交易所みたいな中立地帯を造るんですよ。ホープの実質ナンバー1ですからね。「お互いに地位があるので一緒に住むのは難しいけど、月に何回かそこで……なればいいんじゃないでしょうか」

【マリーカ】：お互いの付き人が上役以上にギラギラしていたりして。

【GM】：そんな感じで交渉、外交など、様々なジャンルで活躍していると、やがて5レベルのあなたがたにデーモン族の暗殺者が送り出されてきます。

【ルクレチア】：あっ、大丈夫、国営暴力団がそれを防ぐから。

一同：笑

【GM】：暴力団いってるよ（笑）

【プーチン】：だからそうね、公立暴力団がそこを守り、ドラゴン族と人間族の和平への第一歩としてそこができあがり、お互いがお互いを監視するので、「くそっ浮気ができね」（笑）ってなるんだよね。

【GM】：そうなるとヘビ女さんもデーモン族に狙われるだけでなく、ドラゴン族・人間族の原理主義者も動き出しそうですね。

【ラズロック】：ホープの町に移住希望者を募って、

【プーチン】：同じ町だと文句を言う奴がいるので、半日くらい離れたところに新たな村を造って彼らを招き入れる。

【GM】：ニューホープとか。

【マリーカ】：自分は実家に持って行って、王家付剣術指南役という免状を父親と兄貴に「いらない」って言って渡す。

【GM】：（兄貴）「なに、ウーパールーパーに勝てるようになった、この俺より強くなっただ」と（笑）

【マリーカ】：ていうか、あんた私に負けてるし。ということは言わないでおこう。

【ルクレチア】：さすがに少し空気を読むようになったんだ……って、なってないよ。

【GM】：この辺のパワーバランスが崩れ、

【ラズロック】：ちょっと竜族に傾いてるよ。

【プーチン】：暗殺者がデーモンのほうから送られているけど、ことごとく返り討ちで、あれじゃないの、

あれ。一晩経つとデーモンの死体が杭に刺さってたてられてるんじゃないかねえの。

【マリーカ】：この前読んだ小説の北方謙三水滸伝みたいな暗殺合戦が繰り返されるんですね。

【GM】：ドラゴン族内部のアンチ和平派も動きだし、

【プーチン】：ニューホープの村がある程度かたちになってきたらデーモン族に交渉するのもありだよな。

【ルクレチア】：所詮、人間族はドラゴン族、デーモン族双方の顔色をうかがわなきゃいけない種族だからね。

【プーチン】：だからうちのここはスイスみたいに中立地帯にしましょうよ、と話も数年後にはできるんじゃないかな。

【GM】：フェザーン的な位置に。

【プーチン】：ここでは出会ってもアムロとシャアがやったように喧嘩はせずに。喧嘩すると俺が殴るよ。うちら殴るよ、じゃなくて「立ち去らせるよ」か。

一同：笑

【マリーカ】：失うものより得るもののほうが大きいように見せかけられていればいいわけで。

【GM】：そんな情勢になってキャンペーンは終わっていくのです。

【ルクレチア】：平和な話だ。

一同：お疲れさまでした

【プーチン】：いやー、愛を説くって素晴らしいね。

【ラズロック】：最後までいろんな意味で僧侶だった。

【ルクレチア】：まさに愛の僧侶だったね。

●後書き対談：パールシードっていいよね★

【露茶】：パールシードはいいゲームですね。ぜひ、再販してもらいたいです。これくらいだったら、結構再販してもらいたいよ、ほんきで。

だって、ほんとに遊びやすいもん、ほんとに。

というわけで、今度から「ほっぷ・こん！」で絶版ものも遊べるようにしましたので、

【たいпей】：なんかセカンドエディションみたいなかたちで、2D6か1D6のどちらかに統一しようぜ。

【ジャック】：我々が創ればいいんだよ。

【露茶】：なければ創ればいいんだ。

【たいпей】：それが同人魂

【露茶】：というかゲーマー魂。

【ジャック】：ちなみに今、パールシードの版權ってどこ持ってるの？

【すな】：たぶん、冒企さん。

【たいпей】：デザインするほうはマトリクス表つくるのはめんどくさいけど、遊びやすいは遊びやすいわ。あとはダイス1個か2個か統一して欲しい。

【露茶】：絶対、(魔法や一般行為判定で)2個振っちゃいますよ。逆にいえば、2D6でマトリクスをつく

りなおしてもらえれば。

【たいぺい】：2 D 6 で1 レベルだと半々でっていうやつ。半々で成功して、出目をプラスマイナスする修正をGMがつけていいと。

プレイが終わった後もこんな感じで、パールシードの魅力を語り合ったのでした。

■イラストについて

- 小さなモンスターカット
megu
- ドクトルV、ジョセフ、偽ジョセフ、三姉妹
鉢珂 <http://boo.8ksg.net/>
- 表紙、各P Cカット
海石（海石工房）
<http://www.ne.jp/asahi/st/kaishi/>

書名	：『靈葉は千兵を越えた』 「聖珠伝説パールシード」リプレイ
著者	：たまねぎ須永
発行団体	：オニオンワークス
E-mail	：t_sunaga@tamasuna.jp
Web Site	：http://www.tamasuna.jp/onion/
初版発行	：2011年 8月12日
分割改版発行	：2011年11月27日
第3刷発行	：2013年 8月12日
web版発行	：2014年 8月13日